

Ⅲ 調査結果の分析

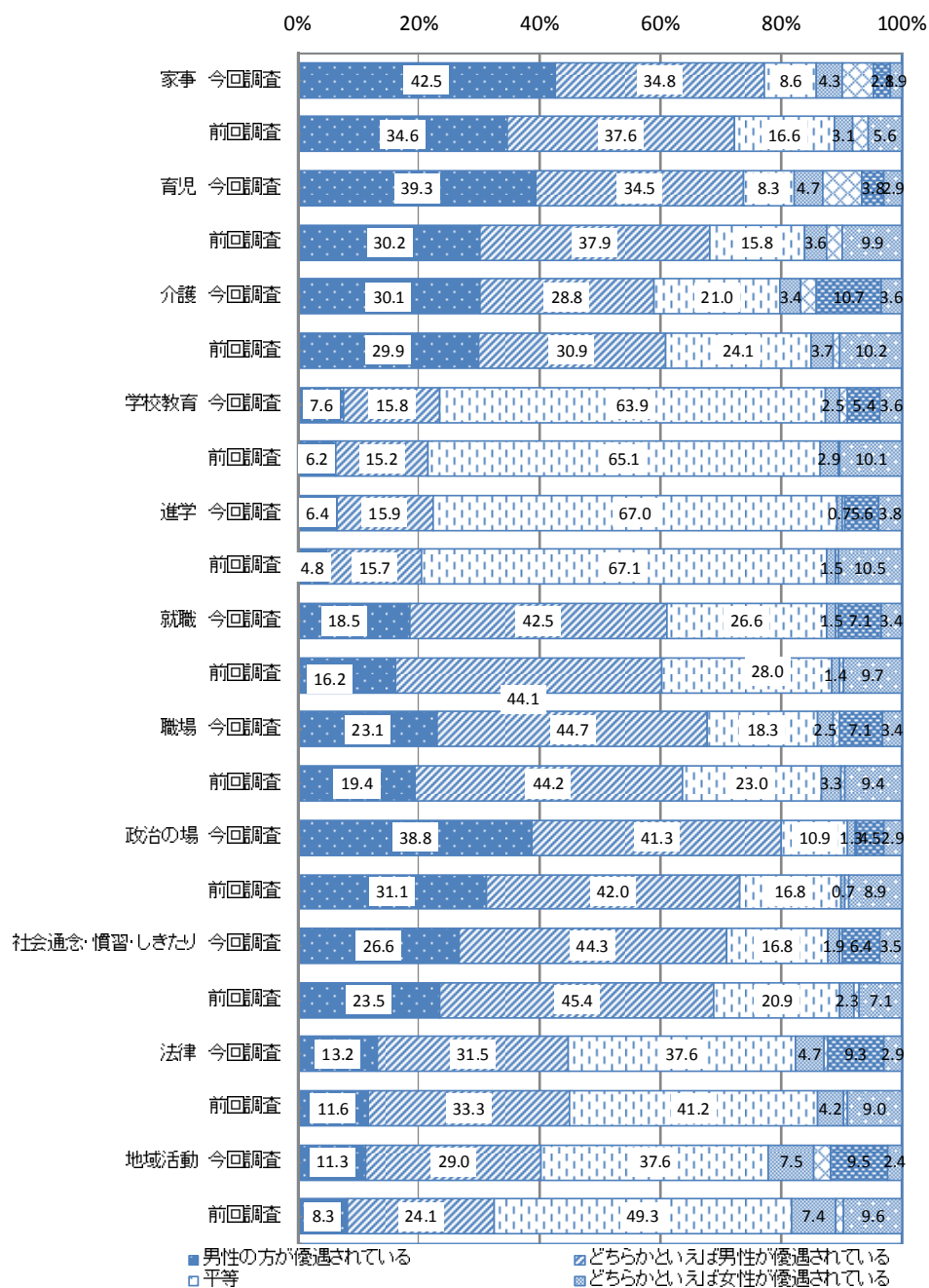
1. 男女平等の意識について

(1) 男女の平等感

問1 あなたは、日常生活で次の項目について、男女の地位は平等になっていると思いますか。

各項目ごとにあてはまる番号を1つ選んで○印をつけてください。

図表 男女の平等感(SA) [N=891]

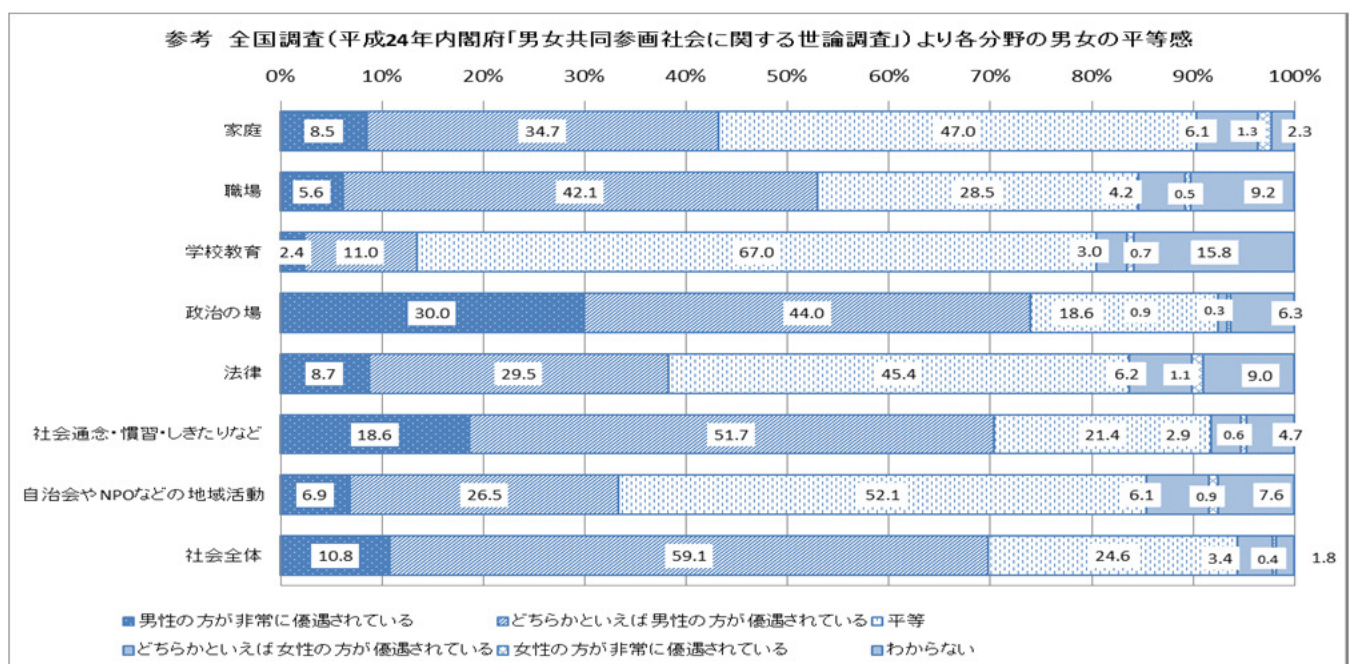


男女の平等感を尋ねた問いである。まず①から⑩までの項目でそれぞれの傾向を比較して経年変化を観察し、つぎに各項目において性別や年齢別などの詳細な検討を加えていくことにする。

①～⑩のうち、「平等」と答えた人が半数以上を占めるのは「⑥進学」と「④学校教育」の学校教育関連の項目で、それぞれ 67.0%、63.9%となっている。それ以外の項目はいずれも「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」の「男性優遇」感が多く、それらを合計してみると、「⑧政治の場」の 80.1%を筆頭に、「①家事」77.3%、「②育児」73.8%、「③社会通念・慣習・しきたり」70.9%、「⑦職場」68.5%、「⑥就職」61.9%、「③介護」58.9%、「⑩法律・制度」44.7%、「⑩地域活動（自治会・PTA 活動など）」40.3%となっており、どの項目においても「平等」や「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」の「女性優遇」感を大幅に上回っている。

前回調査は質問の立て方が「男女が不平等であると感じることはありますか」と尋ねていたので、今回の「男女の地位は平等になっていると思いますか」とは微妙にニュアンスが異なる。また、選択肢も今回の「平等」にあたるものが前回は「男女の不平等を感じることはほとんどない」となっており、全体的に平等よりも不平等に焦点が絞られていたので、単純に比較することには注意が必要である。ただ、男女の地位を図る項目は今回の①から⑩までと同じものが用意されているので、注意しながら比較してみた。

選択肢の表現は異なっても、「平等（男女の不平等を感じることはほとんどない）」と答えた人が半数以上を占めたのは「進学」と「学校教育」で、学校教育関連であることに変化はなかった。逆に「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた「男性優遇」感は、前回の「家事」「育児」を抜いて「政治の場」がもっとも高くなっている。この 10 年で男性の育児休業取得を進める施策が講じられたことの反映であろうか。ただ、前回においては学校教育関連分野とともに「自治会・PTA 活動」でも「平等」感が「男性優遇」感を上回っていたが、今回はそれが逆転して「男性優遇」と答えた人が多くなっていることにも注意が必要であろう。



内閣府でも同様の調査が実施されている。ただ、その選択肢が「男性の方が非常に優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」と若干表現が異なることから、まったく同じような比較はできないが、学校教育が飛びぬけて「平等」と答えた人が多く、過半数を超えている点は本市調査と同じである。ただ全国調査では「家庭生活」においても47.0%が「平等」と答えて、「男性優遇」感や「女性優遇」感を上回っているが、本市調査において「家庭生活」と同義とみなしうる「家事」「育児」の「平等」はいずれも10%に満たない。すなわち、「家事」「育児」において「男性優遇」感が大半を占めている点は、宝塚市の特徴として指摘することができる。

①家事

属性		N数	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
(単位:%)									
性別	女性	536	45.9	33.6	7.3	3.4	6.0	2.8	1.1
	男性	338	37.3	37.3	10.9	5.3	3.8	2.7	2.7
	無回答	17	41.2	23.5	5.9	11.8	0.0	5.9	11.8
年代	16~24歳	45	17.8	26.7	15.6	15.6	15.6	8.9	0.0
	25~34歳	74	36.5	24.3	12.2	6.8	13.5	6.8	0.0
	35~44歳	151	39.1	38.4	9.3	3.3	4.6	3.3	2.0
	45~54歳	160	45.0	33.1	9.4	5.6	4.4	1.3	1.3
	55~64歳	148	56.1	33.1	4.7	1.4	1.4	2.0	1.4
	65歳以上	303	41.6	38.6	7.9	3.0	4.0	2.0	3.0
婚姻状況	結婚している	648	45.1	36.1	9.1	2.2	4.3	2.2	1.1
	結婚していない	124	29.0	31.5	8.1	12.1	9.7	7.3	2.4
	離婚・死別した	71	43.7	25.4	8.5	8.5	5.6	1.4	7.0
子どもの有無	子どもがいる	115	40.9	33.9	11.3	1.7	8.7	3.5	0.0
	子どもはいない	726	42.8	34.7	8.4	4.5	4.7	20.0	2.1
高齢者の有無	高齢者(いる)	222	49.1	34.7	5.9	3.2	4.5	1.8	0.9
	高齢者(いない)	620	40.3	34.5	10.0	4.5	5.5	3.2	1.9

※紙数の関係上、前回調査のデータは省略した。

「家事」に関する男女の平等感は、性別、年齢、結婚・離婚、子どもの有無、高齢者の有無、すべての属性において「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた「男性優遇」感が高かった。

性別では「男性優遇」感は女性で79.5%、男性で74.6%となっており、わずかではあるが女性が4.9ポイント高かった。「平等」感は男性が10.9%、女性が7.3%と、男性が3.6ポイント高かった。「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた「女性優遇」感は、女性が9.4%、男性が9.1%と、男女でほとんど差がみられなかった。

前回は男性よりも女性に「男性優遇」感が高く、「平等」感は女性よりも男性が高くなっており、大きな変化は見受けられない。

年齢別では、25歳以上の世代ではいずれの世代でも「男性優遇」感が半数以上で、35歳以上になると77.5%から89.2%にいたるのに対し、「16～24歳」の「男性優遇」感は44.5%に止まっていることが特徴的である。また「平等」感は「16～24歳」、「25～34歳」では15.6%、12.2%と全体の1割を超えているが、他の世代では1割を切っており、「55～64歳」では4.7%となっている。

前回と比べると、「16～24歳」において「男性優遇」感が31.6ポイントも減少し、「女性優遇」感が19.3ポイント増加している。また「平等」感（前は「男女の不平等を感じることはほとんどない」）は、前はいずれの年齢層においても1割を超えていたことから、今回は比較的高い年齢層における「平等感」の減少を指摘することができる。ただしこの点については、前の選択肢が「不平等を感じることはない」であったのに対し、今回は「平等」と積極的な表現であることから、選択する人が減少した可能性がある。

婚姻状況では、「男性優遇」感に大きな差がみられ、「結婚している」人で81.2%、「していない」人で60.5%と、20.7ポイントの差が開いた。逆に「女性優遇」感は「結婚していない」人のほうが高く、それぞれ21.8%と6.5%と15.3ポイント高かった。「平等」感に大きな差はみられない。前は「結婚している」と「していない」人の「男性優遇」感にほとんど違いはなかったが、今回は「結婚している」人の「男性優遇」感が増加し、「していない」人のそれが減少している。また、「結婚していない」人の「女性優遇」感も増加している。

子どもの有無別については、前回同様、大きな特徴などはみられなかった。

高齢者の有無別では、「高齢者がいる」人の「男性優遇」感が83.8%、「いない」人で74.8%と9.0ポイント高かった。いっぽう「平等」感は「いない」人で10.0%、「いる」人で5.9%となっており、「いない」人のほうが4.1ポイント高くなっている。前回に比べると、「いる」人の「男性優遇」感が増加し、「いない」人の「平等」感が増加している。

②育児

									(単位:%)
属性		N数	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
性別	女性	536	41.2	35.1	7.1	4.5	6.9	3.2	2.1
	男性	338	36.1	34.3	10.4	5.3	5.6	4.4	3.8
	無回答	17	41.2	17.6	5.9	0.0	11.8	11.8	11.8
年代	16～24歳	45	20.0	22.2	8.9	20.0	17.8	11.1	0.0
	25～34歳	74	32.4	24.3	9.5	8.1	17.6	8.1	0.0
	35～44歳	151	39.7	35.1	7.9	4.6	6.0	4.6	2.0
	45～54歳	160	36.9	37.5	13.8	4.4	5.0	1.3	1.3
	55～64歳	148	53.4	35.8	5.4	1.4	1.4	1.4	1.4
	65歳以上	303	38.0	36.3	6.6	3.6	5.6	4.0	5.9
婚姻状況	結婚している	648	41.4	35.6	9.0	3.1	4.9	3.4	2.6
	結婚していない	124	30.6	27.4	4.8	12.1	14.5	8.1	2.4
	離婚・死別した	71	31.0	33.8	11.3	8.5	8.5	0.0	7.0
子どもの有無	子どもがいる	115	39.1	33.9	11.3	4.3	8.7	2.6	0.0
	子どもはいない	726	38.8	34.4	8.0	5.4	6.3	4.0	3.2
高齢者の有無	高齢者がいる	222	45.9	32.0	7.7	3.6	5.4	3.6	1.8
	高齢者がいない	620	36.5	35.2	8.9	5.8	7.1	3.9	2.9

※紙数の関係上、前回調査のデータは省略した。

「育児」に関する男女平等感も、すべての属性において「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた「男性優遇」感が、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた「女性優遇」感を上回った。

性別では、女性の「男性優遇」感が76.3%、男性が70.4%と女性のほうが5.9ポイント高く、また男性の「平等」感が10.4%、女性が7.1%と男性のほうが3.4ポイントとわずかではあるが高かった。「女性優遇」感に差はみられない。前回も同様の傾向である。

年齢別では、「16～24歳」の「男性優遇」感と「女性優遇」感が均衡しており、それぞれ42.2%と37.8%と、わずか4.4ポイントの差である。他の年齢層ではいずれの世代でも「男性優遇」感が「女性優遇」感の倍以上を占めており、もっともその差が激しいのは「55～64歳」で「男性優遇」感89.2%に対し、「女性優遇」感はわずか2.8%であった。

前回とくらべると、いずれの年齢層においても「男性優遇」感が「女性優遇」感を上回る傾向に変化はないが、「16～24歳」「25～34歳」の若い年齢層において「男性優遇」感がそれぞれ26.1ポイント、16.7ポイントと大きく減少し、逆に「女性優遇」感が24.1ポイント、16.8ポイントも増加している。

婚姻状況別では「結婚している」人の「男性優遇」感が77.0%、「していない」人で58.0%と19.0ポイント高く、逆に「女性優遇」感では「していない」人が26.6%、「している」人が8.0%と18.6ポイント高かった。「平等」感は「している」人で9.0%、「していない」人で4.8%と、「している」人のほうが4.2ポイント高い。前回と比べてみると、「結婚している」人と「していない」人で「男性優遇」感にあまり差がなかった状態から、「結婚している」人の「男性優遇」感が増加している。また「結婚していない」人の「女性優遇」感も増加した点は①家事と同じ傾向である。

子どもの有無別、高齢者の有無別については、いずれも「男性優遇」感が70%を超え、「女性優遇」感と「平等」感がそれぞれ10%前後となっており、それぞれの有無別で顕著な特徴などはみられない。前回も同じような傾向である。

③介護

属性		N数	男性の方が 優遇されて いる	どちらかとい えば男性が 優遇されて いる	平等	どちらかとい えば女性が 優遇されて いる	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
性別	女性	536	37.1	29.1	15.1	3.2	3.4	9.9	2.2
	男性	338	19.2	29.6	30.8	3.3	0.9	10.9	5.3
	無回答	17	23.5	5.9	11.8	11.8	5.9	29.4	11.8
年代	16～24歳	45	8.9	20.0	37.8	6.7	4.4	22.2	0.0
	25～34歳	74	21.6	21.6	21.6	8.1	4.1	23.0	0.0
	35～44歳	151	31.8	26.5	17.9	4.0	2.0	15.9	2.0
	45～54歳	160	35.6	31.9	15.6	3.1	2.5	7.5	3.8
	55～64歳	148	40.5	31.8	18.2	0.7	0.7	4.1	4.1
	65歳以上	303	26.4	30.7	24.1	2.6	2.6	8.3	5.3
婚姻状況	結婚している	648	32.1	29.6	19.9	2.8	2.3	10.2	3.1
	結婚していない	124	19.4	25.8	25.8	5.6	3.2	16.9	3.2
	離婚・死別した	71	32.4	26.8	21.1	1.4	2.8	8.5	7.0
子どもの有無	子どもがいる	115	27.8	34.8	15.7	3.5	2.6	13.9	1.7
	子どもはいない	726	30.6	28.0	21.6	3.0	2.5	10.6	3.7
高齢者の有無	高齢者がいる	222	35.1	31.1	19.8	3.2	2.7	6.8	1.4
	高齢者がいない	620	28.5	28.1	21.3	3.1	2.4	12.6	4.0

※紙数の関係上、前回調査のデータは省略した。

「介護」に関する男女の平等感について分析していく。

性別で詳しくみると、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた「男性優遇」感は女性で66.2%、男性で48.8%と女性が17.4ポイント高く、「平等」感では男性が30.8%、女性で15.1%と男性が15.7ポイント高かった。「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた「女性優遇」感に大きな差はなかった。この傾向は前回から大きく変化していない。

年齢別では「16～24歳」で他の年齢層と異なる傾向がみられ、「平等」感がもっとも高く37.8%を占め、次に「男性優遇」感が28.9%、「女性優遇」感が11.1%となった。ただし、「わからない」も22.2%と多く、「25～34歳」でも23.0%であったことに鑑みると、若い世代にとって介護はあまり実感がわかなかったということであろうか。他の年齢層ではいずれも「男性優遇」感が高く、「25～34歳」で43.2%、「35～44歳」で58.3%と年齢が上がるにつれ「男性優遇」感が高まるが、「55～64歳」の72.3%をピークにして「65歳以上」は57.1%と減少する。「平等」感は先述のとおり「16～24歳」でもっとも高く37.8%となっているが、65歳以上においても24.1%を占めるなど、いずれの世代においても二桁を超えており、比較的「平等」感が高いといえる。

前回と比べてみると、「16～24歳」において「男性優遇」感が21.6ポイント減少しており、逆に「平等」感はほとんど変化していない。

婚姻状況別でみると、「男性優遇」感と「平等」感で差がみられ、「男性優遇」感では「結婚している」人が61.7%、「していない」人が45.2%と、「結婚している」人のほうが16.5ポイント高くなっている。「平等」感は逆に「していない」人のほうが高く25.8%、「している」人で19.9%と5.9ポイントの差が開いた。前回も同じような傾向であった。

子どもの有無別では、「子どもがいる」人の「男性優遇」感が62.6%、「いない」人が58.6%と4.0ポイント高く、また「いない」人の「平等」感が21.6%、「いる」人で15.7%と5.9ポイント高かった。今回は子どもの有無で「平等」感にほとんど違いはなかったが、今回は「いない」人の平等感が増加している。

高齢者の有無別では、「男性優遇」感に差がみられ、「高齢者がいる」人が66.2%、「いない」人が56.6%と、「高齢者がいる」人のほうが9.6ポイント高かった。前回も同様の傾向である。

④学校教育

属性	N数	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	
性別	女性	536	9.9	16.8	61.0	2.2	1.7	5.4	3.0
	男性	338	3.8	14.2	69.2	3.0	0.6	5.3	3.8
	無回答	17	11.8	17.6	47.1	0.0	0.0	5.9	17.6
年代	16～24歳	45	2.2	6.7	82.2	2.2	2.2	4.4	0.0
	25～34歳	74	4.1	12.2	74.3	2.7	0.0	5.4	1.4
	35～44歳	151	8.6	13.2	63.6	3.3	1.3	7.9	2.0
	45～54歳	160	9.4	16.9	65.0	1.3	1.3	4.4	1.9
	55～64歳	148	8.1	15.5	63.5	3.4	0.0	5.4	4.1
	65歳以上	303	6.6	18.5	59.1	2.3	2.0	5.0	6.6
婚姻状況	結婚している	648	7.9	16.0	63.9	2.6	0.9	5.7	2.9
	結婚していない	124	3.2	11.3	71.8	3.2	0.8	6.5	3.2
	離婚・死別した	71	11.3	19.7	50.7	1.4	4.2	1.4	11.3
子どもの有無	子どもがいる	115	8.7	14.8	68.7	1.7	0.0	5.2	0.9
	子どもはいない	726	7.0	15.8	63.1	2.8	1.4	5.5	4.4
高齢者の有無	高齢者がいる	222	6.8	14.9	62.6	3.6	1.4	6.8	4.1
	高齢者がいない	620	7.4	16.0	64.5	2.3	1.1	5.0	3.7

※紙数の関係上、前回調査のデータは省略した。

「学校教育」についての男女の平等感では、前回同様、すべての属性において「平等」がもっとも多かった。

性別で見ると、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた「男性優遇」感は、女性が26.7%、男性が18.0%となっており、女性が男性を8.7ポイント上回った。逆に「平等」感では、男性が69.2%、女性が61.0%と、男性が8.2ポイント上回っている。「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた「女性優遇」感に大きな差はない。前回も同様の傾向であった。

年齢別では、「16～24歳」の「平等」感が82.2%と突出して高く、以降「25～34歳」で74.3%、35歳以降は60%前後、もっとも低い「65歳以上」で59.1%となっており、おおむね年齢が高くなるにしたがい「平等」感は低下している。「男性優遇」感は「16～24歳」でもっとも低く8.9%となっており、「25～34歳」で16.3%、35歳以降では20～25%と大きな違いはみられない。「女性優遇」感もいずれの年齢層でも低く、一番低い「45～

54歳」で2.6%、高い「35～44歳」で4.6%である。

前回と比べると、35歳から64歳まではさほど変わらないが、「16～24歳」と「25～34歳」と、「65歳以上」で「平等」感が高くなっており、とくに「16～24歳」では10.4ポイントも増加した。

婚姻別では「男性優遇」感が、「結婚している」人で23.9%、「していない」人で14.5%となっており、「結婚している」人のほうが9.4ポイント高い。いっぽう、「していない」人の「平等」感が71.8%、「している」人の63.9%で、「平等」感においては「していない」人が7.9ポイント高かった。この傾向は前回とほぼ同じである。

子どもの有無別、高齢者の有無別では、前回同様、顕著な差異や傾向はみられなかった。

⑤進学

		(単位:%)							
属性		N数	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
性別	女性	536	8.0	17.7	63.6	0.6	0.6	6.2	3.4
	男性	338	3.6	12.4	74.0	0.9	0.6	4.7	3.8
	無回答	17	11.8	29.4	35.3	0.0	0.0	5.9	17.6
年代	16～24歳	45	2.2	11.1	80.0	0.0	0.0	6.7	0.0
	25～34歳	74	4.1	10.8	77.0	0.0	0.0	8.1	0.0
	35～44歳	151	6.0	10.6	72.8	2.0	0.7	5.3	2.6
	45～54歳	160	6.3	11.9	75.0	0.0	0.6	4.4	1.9
	55～64歳	148	8.1	16.2	64.9	0.7	0.0	7.4	2.7
	65歳以上	303	6.6	21.8	57.8	0.7	1.0	5.0	7.3
婚姻状況	結婚している	648	6.3	15.7	68.2	0.6	0.6	5.7	2.8
	結婚していない	124	3.2	11.3	75.8	0.8	0.0	6.5	2.4
	離婚・死別した	71	9.9	21.1	47.9	1.4	1.4	2.8	15.5
子どもの有無	子どもがいる	115	5.2	15.7	73.0	0.0	0.0	5.2	0.9
	子どもはいない	726	6.3	15.6	66.7	0.8	0.7	5.6	4.3
高齢者の有無	高齢者(は)いる	222	7.2	17.1	62.2	1.4	0.5	7.2	4.5
	高齢者(は)いない	620	5.8	15.0	69.7	0.5	0.6	5.0	3.4

※紙数の関係上、前回調査のデータは省略した。

「進学」についての男女の平等感は、いずれの属性においても「平等」感がもっとも高くなった。

性別では「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた「男性優遇」感は、女性が25.7%、男性が16.0%となっており、女性が9.7ポイント上回っている。逆に「平等」感では男性が74.0%、女性が63.6%となっており、男性が10.4ポイント上回っている。「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた「女性優遇」感に大きな差はない。前回もほぼ同様の傾向であった。

年代別では、「16～24歳」の80.0%を筆頭に、ほぼ年齢が上がるごとに「平等」感は下がっていき、もっとも低い「65歳以上」では57.8%となった。逆に「男性優遇」感は年齢が上がるごとに増えていき、もっとも低い「16～24歳」で13.3%、高い「65歳以上」で

28.4%となっている。前回と「平等」感の傾向は同じであるが、「男性優遇」感と年齢との関係性は前回にはみられなかった傾向である。

婚姻状況別では、「結婚している」人の「男性優遇」感が22.0%、「していない」人で14.5%となっており、7.5ポイント高かった。「平等」感は逆に「していない」人で75.8%、「している」人で68.2%と、「していない」人のほうが7.6ポイント高くなっている。前回も同じ傾向であった。

子どもの有無別では、「子どもがいる」人の「平等」感が73.0%、「いない」人で66.7%となっており、6.3ポイントの差があった。これも前回と同じ傾向である。

高齢者の有無別では、前回と同じく顕著な差異などはみうけられない。

⑥就職

									(単位:%)
属性		N数	男性の方が 優遇されて いる	どちらかとい えば男性が 優遇されて いる	平等	どちらかとい えば女性が 優遇されて いる	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
性別	女性	536	23.3	42.4	22.9	0.7	0.2	7.3	3.4
	男性	338	11.2	42.6	32.8	2.7	0.9	6.5	3.2
	無回答	17	17.6	41.2	17.6	0.0	0.0	11.8	11.8
年代	16～24歳	45	13.3	31.1	37.8	0.0	0.0	17.8	0.0
	25～34歳	74	10.8	51.4	28.4	4.1	0.0	4.1	1.4
	35～44歳	151	23.2	41.7	25.2	1.3	0.7	6.0	2.0
	45～54歳	160	15.0	47.5	26.9	1.9	1.3	5.6	1.9
	55～64歳	148	18.2	41.2	28.4	1.4	0.0	8.8	2.0
	65歳以上	303	21.1	39.9	24.4	1.0	0.3	6.9	6.3
婚姻状況	結婚している	648	19.3	43.5	26.4	1.2	0.6	6.5	2.5
	結婚していない	124	11.3	43.5	26.6	3.2	0.0	11.3	4.0
	離婚・死別した	71	21.1	38.0	23.9	1.4	0.0	4.2	11.3
子どもの有無	子どもはいる	115	17.4	51.3	27.0	0.0	0.0	3.5	0.9
	子どもはいない	726	18.3	41.9	26.0	1.8	0.6	7.6	3.9
高齢者の有無	高齢者はいる	222	18.0	44.1	23.0	1.8	0.5	9.0	3.6
	高齢者はいない	620	18.2	42.9	27.4	1.5	0.5	6.3	3.2

※紙数の関係上、前回調査のデータは省略した。

「就職」についての男女の平等感は、いずれの属性においても「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた「男性優遇」感ももっとも高くなっている。

性別で見ると、女性の「男性優遇」感が65.7%、男性の「男性優遇」感が53.8%であり、女性よりも男性が11.9ポイント高い。「平等」感も女性が22.9%男性が32.8%と、男性が9.9ポイント上回った。「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた「女性優遇」感に大きな差はない。前回も同様の傾向である。

年齢別で見ると、「16～24歳」の「男性優遇」感がもっとも低く44.4%だが、25歳以降はいずれの年齢層においても60%前後を占めている。「平等」感も「16～24歳」でもっとも高く37.8%であるが、それ以降の年齢層では25～28%となっている。前回と比べると、「16～24歳」の「男性優遇」感が18.8ポイント減少し、逆に「平等」感が6.2ポイント増加している。

婚姻状況別では「結婚している」人の「男性優遇」感が62.8%、「していない」人が54.8%となっており、「結婚している」人が8.0ポイント高い。前回は「平等」感に差がみられたが、今回は「平等」感に差はみられない。

子どもの有無別では、「子どもはいる」人の「男性優遇」感が68.7%で、「いない」人の60.2%を8.5ポイント上回っている。前回も同じ傾向であった。

高齢者の有無別では、前回同様、顕著な差異などはみられない。

⑦職場

									(単位:%)
属性		N数	男性の方が 優遇されて いる	どちらかとい えば男性が 優遇されて いる	平等	どちらかとい えば女性が 優遇されて いる	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
性別	女性	536	27.1	45.1	15.5	2.1	0.2	7.5	2.6
	男性	338	16.3	44.7	23.4	3.0	2.1	6.5	4.1
	無回答	17	35.3	29.4	5.9	5.9	5.9	5.9	11.8
年代	16～24歳	45	20.0	24.4	26.7	2.2	0.0	26.7	0.0
	25～34歳	74	16.2	43.2	24.3	6.8	4.1	4.1	1.4
	35～44歳	151	27.8	40.4	19.2	3.3	1.3	5.3	2.6
	45～54歳	160	18.1	45.0	25.0	1.9	1.3	5.6	3.1
	55～64歳	148	24.3	49.3	16.2	2.0	0.7	4.7	2.7
	65歳以上	303	24.1	48.2	12.9	1.3	0.3	7.9	5.3
婚姻状況	結婚している	648	23.8	45.5	18.1	2.3	0.9	6.5	2.9
	結婚していない	124	17.7	37.9	22.6	2.4	2.4	13.7	3.2
	離婚・死別した	71	23.9	46.5	16.9	0.0	0.0	4.2	8.5
子どもの有無	子どもはいる	115	27.0	45.2	20.0	2.6	0.0	4.3	0.9
	子どもはいない	726	22.3	44.4	18.3	2.1	1.2	7.9	3.9
高齢者の有無	高齢者はいる	222	23.4	43.7	17.6	1.8	1.8	8.6	3.2
	高齢者はいない	620	22.7	44.8	19.0	2.3	0.8	6.9	3.4

※紙数の関係上、前回調査のデータは省略した。

「職場」についての男女の平等感、いずれの属性においても「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた「男性優遇」感ももっとも高くなった。

性別で詳しくみると、女性の「男性優遇」感が72.2%、男性は61.0%となっており、男性よりも女性が11.2ポイント高かった。また「平等」感も女性が15.5%、男性が23.4%と、男性の方が7.9ポイント高かった。「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた「女性優遇」感に大きな差はない。前回と同様の傾向である。

年齢別で詳細にみると、「16～24歳」の「男性優遇」感がもっとも低く44.4%、「25～34歳」で59.4%、そしてもっとも高い「55～64歳」で73.6%となっている。「平等」感も16～54歳まではいずれも20～25%前後となっているが、「55～64歳」、「65歳以上」では16.2%、12.9%と低くなっている。前回と比べると「16～24歳」の「男性優遇」感が減少していることが指摘できる。

婚姻状況別では、「結婚している」人の「男性優遇」感が69.3%、「していない」人で55.6%となっており、13.7ポイントの差が開いている。前回と比べると、「していない」人の「男性優遇」感が減少している。

子どもの有無別では、「子どもはいる」人の「男性優遇」感が72.2%、「いない」人で66.7%と5.5ポイントの差が開いた。前回も同様の傾向であった。

高齢者の有無別では、前回と同じく、顕著な傾向などはみられない。

⑧政治の場

									(単位: %)
属性		N数	男性の方が 優遇されて いる	どちらかとい えば男性が 優遇されて いる	平等	どちらかとい えば女性が 優遇されて いる	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
性別	女性	536	45.5	39.6	6.5	0.6	0.2	5.2	2.4
	男性	338	28.4	44.4	18.0	2.7	0.3	3.0	3.3
	無回答	17	35.3	35.3	5.9	0.0	0.0	11.8	11.8
年代	16～24歳	45	33.3	40.0	20.0	0.0	0.0	6.7	0.0
	25～34歳	74	31.1	48.6	9.5	2.7	0.0	8.1	0.0
	35～44歳	151	41.7	39.1	8.6	2.6	0.0	5.3	2.6
	45～54歳	160	43.8	40.6	9.4	0.6	0.0	3.8	1.9
	55～64歳	148	41.2	42.8	9.5	1.4	0.7	1.4	3.4
	65歳以上	303	36.6	40.3	12.5	1.0	0.3	5.0	4.3
婚姻状況	結婚している	648	40.3	41.0	10.8	1.5	0.2	4.3	1.9
	結婚していない	124	35.5	41.1	14.5	1.6	0.0	4.8	2.4
	離婚・死別した	71	32.4	40.8	5.6	0.0	1.4	8.5	11.3
子どもの有無	子どもはいる	115	36.5	48.7	6.1	2.6	0.0	5.2	0.9
	子どもはいない	726	39.3	39.9	11.6	1.2	0.3	4.7	3.0
高齢者の有無	高齢者はいる	222	43.7	41.4	7.7	0.9	0.5	3.6	2.3
	高齢者はいない	620	37.3	41.0	12.1	1.6	0.2	5.2	2.4

※紙数の関係上、前回調査のデータは省略した。

「政治の場」についての男女の平等感では、すべての属性において「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた「男性優遇」感をもっとも高く、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた「女性優遇」感是非常に少なかった。

性別でみていくと、女性の「男性優遇」感が85.1%、男性が72.8%と、12.3ポイント女性のほうが高かった。逆に男性の「平等」感は18.0%、女性は6.5%となっており、「平等感」においては男性のほうが11.5ポイント高くなっている。前回もほぼ同様の傾向であった。

年齢別でみると、いずれの年齢層も「男性優遇」感は70～80%台となっており、もっとも少ない「16～24歳」で73.3%、多い「45～54歳」で84.4%となっている。「平等」感は「16～24歳」がもっとも高く20.0%、それ以外の年齢層は10%前後となっている。前回も、ほぼ同じ傾向である。

婚姻状況別でみると、「結婚している」人の「男性優遇」感が81.3%、「していない」人で76.6%と、4.7ポイントの差があった。前回と比べると「結婚している」人の「男性優遇」感が増加している。

子どもの有無別でも、「子どもはいる」人の「男性優遇」感が85.2%、「いない」人で79.2%と、6.0ポイントの差があった。前回と比べると、「子どもがいない」人の「男性優遇」感が減少している。

高齢者の有無別では、「高齢者のいない」人の「男性優遇」感が85.1%、「いる」人で78.3%と、6.8ポイントの差があった。前回と比べると、「高齢者のいない」人の「男性優遇」感が減少している。

⑨社会通念・慣習・しきたりなど

									(単位:%)
属性		N数	男性の方が 優遇されて いる	どちらかとい えば男性が 優遇されて いる	平等	どちらかとい えば女性が 優遇されて いる	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
性別	女性	536	33.4	40.9	12.3	2.4	0.4	6.7	3.9
	男性	338	16.0	50.0	24.6	1.2	0.6	5.3	2.4
	無回答	17	23.5	41.2	5.9	0.0	0.0	17.6	11.8
年代	16～24歳	45	20.0	33.3	24.4	2.2	0.0	17.8	2.2
	25～34歳	74	17.6	50.0	18.9	4.1	0.0	9.5	0.0
	35～44歳	151	26.5	39.7	19.9	3.3	1.3	6.0	3.3
	45～54歳	160	30.0	47.5	13.8	0.0	0.0	6.3	2.5
	55～64歳	148	32.4	46.6	12.8	1.4	0.0	4.1	2.7
	65歳以上	303	25.1	44.2	17.5	2.0	0.7	4.3	5.3
婚姻状況	結婚している	648	29.0	43.8	17.0	1.7	0.3	5.4	2.8
	結婚していない	124	16.9	44.4	21.0	1.6	0.0	12.9	3.2
	離婚・死別した	71	18.3	50.7	8.5	2.8	2.8	5.6	11.3
子どもの有無	子どもがいる	115	27.0	46.1	13.9	3.5	0.9	6.1	2.6
	子どもはいない	726	26.3	44.2	17.2	1.5	0.4	6.6	3.7
高齢者の有無	高齢者がいる	222	29.3	44.6	12.6	2.7	0.0	6.8	4.1
	高齢者がいない	620	25.3	44.5	18.4	1.5	0.6	6.5	3.2

※紙数の関係上、前回調査のデータは省略した。

「社会通念・慣習・しきたり」についての男女の平等感は、いずれの属性においても、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた「男性優遇」感が高かった。

性別で見ると、女性の「男性優遇」感が74.3%、男性が66.0%と、8.3ポイント女性のほうが高かった。逆に「平等」感は男性が24.6%、女性は12.3%となっており、男性のほうが12.3ポイント高くなっている。前回はほぼ同様の傾向であった。

年齢別で見ると、「16～24歳」以外、いずれの年齢層でも「男性優遇」感は60～70%台となっており、もっとも多い「55～64歳」で79.0%となっている。「平等」感は「16～24歳」がもっとも高く24.4%、それ以外の年齢層では12.8%「55～64歳」から19.9%「35～44歳」の範囲内となっている。前回と比べると、16～24歳の「男性優遇」感が減少している。

婚姻状況別で見ると、「結婚している」人の「男性優遇」感が72.8%、「していない」人で61.3%と、11.5ポイントの差があった。また「していない」人の平等感が21.0%、「している」人で17.0%と、4.0ポイントの差があった。前回はほぼ同様である。

子どもの有無別では子どもの有無にかかわらず「男性優遇」感がもっとも多く、とくに顕著な特徴などはない。前回はほぼ同様の傾向である。

高齢者の有無別では、「高齢者がいる」人の「男性優遇」感が73.9%、「いない」人で69.8%と4.1ポイント差が開いた。「平等」感は「いない」人が18.4%、「いる」人が12.6%であり、5.8ポイントの差となっている。前回と比べると、「高齢者がいる」人の「平等」感が減少している。

⑩法律、制度

属性		N数	男性の方が 優遇されて いる	どちらかとい えば男性が 優遇されて いる	平等	どちらかとい えば女性が 優遇されて いる	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
性別	女性	536	17.5	34.9	29.9	3.4	0.4	10.8	3.2
	男性	338	6.2	26.9	50.6	6.8	1.2	6.2	2.1
	無回答	17	17.6	17.6	23.5	5.9	0.0	23.5	11.8
年代	16～24歳	45	8.9	20.0	44.4	4.4	0.0	22.2	0.0
	25～34歳	74	6.8	35.1	31.1	8.1	2.7	14.9	1.4
	35～44歳	151	15.9	27.2	33.8	9.3	2.0	9.3	2.6
	45～54歳	160	14.4	32.5	38.8	5.0	0.0	6.9	2.5
	55～64歳	148	14.2	37.2	35.1	4.7	0.0	6.8	2.0
	65歳以上	303	12.5	31.4	41.3	1.3	0.3	8.9	4.3
婚姻状況	結婚している	648	13.9	32.4	38.1	4.6	0.6	8.0	2.3
	結婚していない	124	9.7	26.6	40.3	5.6	0.8	13.7	3.2
	離婚・死別した	71	9.9	40.8	21.1	4.2	1.4	14.1	8.5
子どもの有無	子どもはいる	115	14.8	39.1	24.3	7.0	2.6	10.4	1.7
	子どもはいない	726	12.7	31.3	38.8	4.4	0.4	9.2	3.2
高齢者の有無	高齢者はいる	222	14.9	36.0	34.7	3.2	0.0	8.6	2.7
	高齢者はいない	620	12.3	31.0	37.9	5.3	1.0	9.7	2.9

※紙数の関係上、前回調査のデータは省略した。

法律、制度についての男女の平等感を詳細にみていく。

性別では男女で大きく傾向が分かれた。「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた「男性優遇」感が女性で52.4%、男性で33.1%と女性のほうが19.3ポイント高かった。いっぽう「平等」感では女性が29.9%だが、男性では半数を超える50.6%となり、男性が20.7ポイント上回った。前回も「平等」感で男性は半数を超えるなど、ほとんど同じ傾向である。

年齢別では、「男性優遇」感が半数を超えたのは「55～64歳」だけで51.4%、あとはすべて半数を下回り、もっとも少ないのは「16～24歳」で28.9%、あとの年齢層ではいずれも40%台であった。「平等」感をもっとも高かったのは「16～24歳」で44.4%、もっとも少ないのは「25～34歳」で31.1%となっている。また「65歳以上」が「16～24歳」に次いで「平等」感が高く41.3%となっている。前回と比べると、「65歳以上」の「男性優遇」感が増加している。

婚姻状況別であると、「結婚している」人の「男性優遇」感が46.3%、「していない」人で36.3%と、10.0ポイントの差があった。また「していない」人では平等感が「男性優遇」感を上回っており、40.3%となっている。前回もほとんど同じ傾向である。

子どもの有無別では、「子どもはいる」人の「男性優遇」感が53.9%、「いない」人で44.0%と、「いる」人が9.9ポイント高くなった。

高齢者の有無別では、「高齢者がいる」人の「男性優遇」感が50.9%、「いない」人で43.3%と7.6ポイント差が開いた。前回と比べると、「高齢者がいない」人の「平等」感が減少している。

⑩地域活動（自治会、PTA 活動など）

属性		N数	男性の方が 優遇されて いる	どちらかとい えば男性が 優遇されて いる	平等	どちらかとい えば女性が 優遇されて いる	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
性別	女性	536	14.9	33.6	31.0	6.0	2.8	9.5	2.2
	男性	338	5.3	22.5	48.5	10.1	2.7	8.9	2.1
	無回答	17	17.6	11.8	29.4	5.9	0.0	23.5	11.8
年代	16～24歳	45	6.7	15.6	35.6	8.9	6.7	26.7	0.0
	25～34歳	74	10.8	20.3	35.1	9.5	4.1	18.9	1.4
	35～44歳	151	19.2	26.5	31.8	6.0	3.3	11.3	2.0
	45～54歳	160	11.9	36.9	28.8	8.8	2.5	9.4	1.9
	55～64歳	148	11.5	38.5	38.5	3.4	0.7	4.7	2.7
	65歳以上	303	7.6	25.7	45.5	8.9	2.6	6.6	3.0
婚姻状況	結婚している	648	11.9	29.5	39.8	8.0	2.2	6.9	1.7
	結婚していない	124	8.9	21.0	30.6	6.5	4.8	25.8	2.4
	離婚・死別した	71	8.5	40.8	25.4	2.8	2.8	11.3	8.5
子どもの有無	子どもはいる	115	16.5	28.7	34.8	7.0	3.5	7.8	1.7
	子どもはいない	726	10.3	29.3	37.6	7.3	2.5	10.5	2.5
高齢者の有無	高齢者はいる	222	13.1	31.1	35.1	5.9	2.7	10.4	1.8
	高齢者はいない	620	10.5	28.5	38.1	7.9	2.6	10.0	2.4

※紙数の関係上、前回調査のデータは省略した。

地域活動（自治会、PTA 活動等）についての男女の平等感を詳細にみていく。

性別では男女で大きく傾向が分かれた。「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた「男性優遇」感が女性で48.5%、男性で27.8%と女性のほうが20.7ポイント高かった。いっぽう「平等」感では女性が31.0%だが、男性では半数に迫る48.5%と男性が17.5ポイント上回った。前回と比べると傾向は変わっていないが、男性の「平等」感が減少している。

年齢別でみていくと、「男性優遇」感は「16～24歳」が22.3%ともっとも少なく、年齢が上がるにつれ増加し、もっとも多い「55～64歳」で50.0%となり、その後「65歳以上」で33.3%と減少した。「平等」感では16～64歳までは年齢の高低にかかわらず、「45～54歳」で28.8%、「55～64歳」で38.5%となどとなっているが、「65歳以上」において突出して高い45.5%となっている。前回と比べると「16～24歳」の「平等」感が減少している。

婚姻状況別でみると、「結婚している」人の「平等」感が39.8%、「していない」人で30.6%と、9.2ポイントの差があった。前回と比べると「していない」人の「平等」感が減少している。

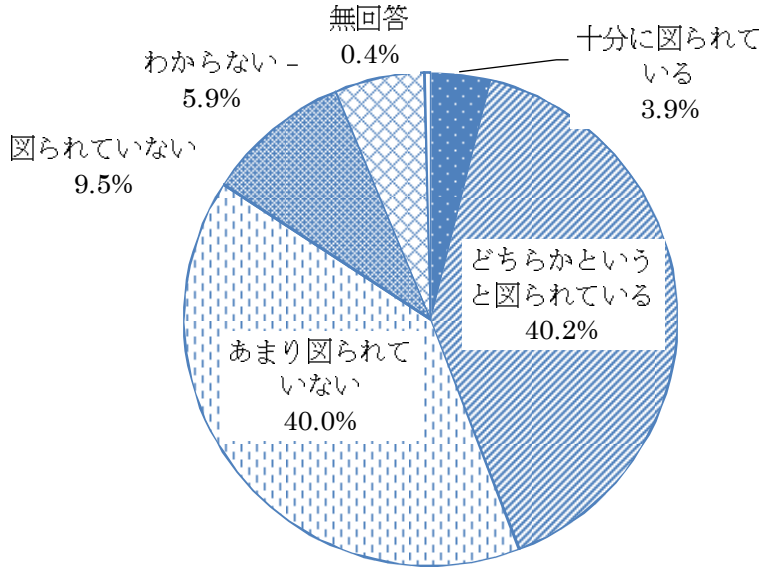
子どもの有無別では、「子どもはいる」人の「男性優遇」感が45.2%、「いない」人で39.6%と、「いる」人が5.6ポイント高くなった。

高齢者の有無別では、「高齢者がいる」人の「男性優遇」感が44.2%、「いない」人で39.0%と5.2ポイント差が開いた。

(2) 社会における男女の機会均等について

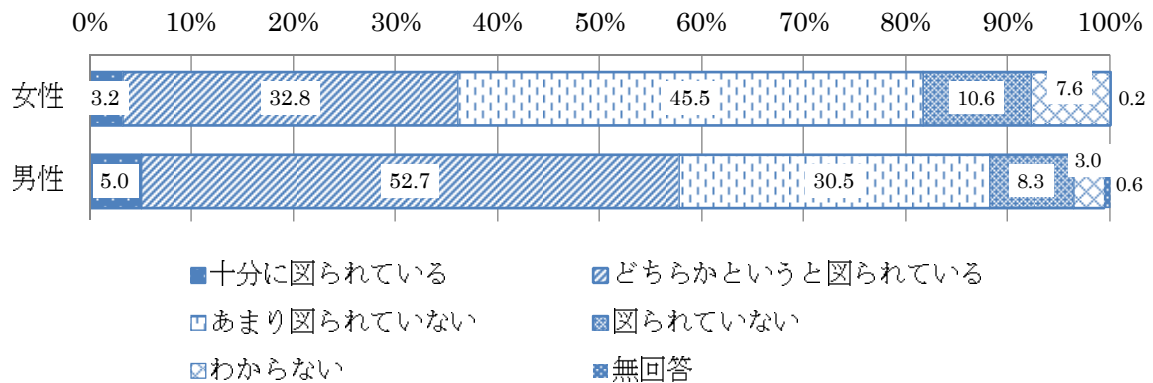
問2 あなたは、社会において男女の機会均等が図られていると思いますか。
(回答は1つ)

図表 社会における男女の機会均等が図られているか (SA) [N=891]

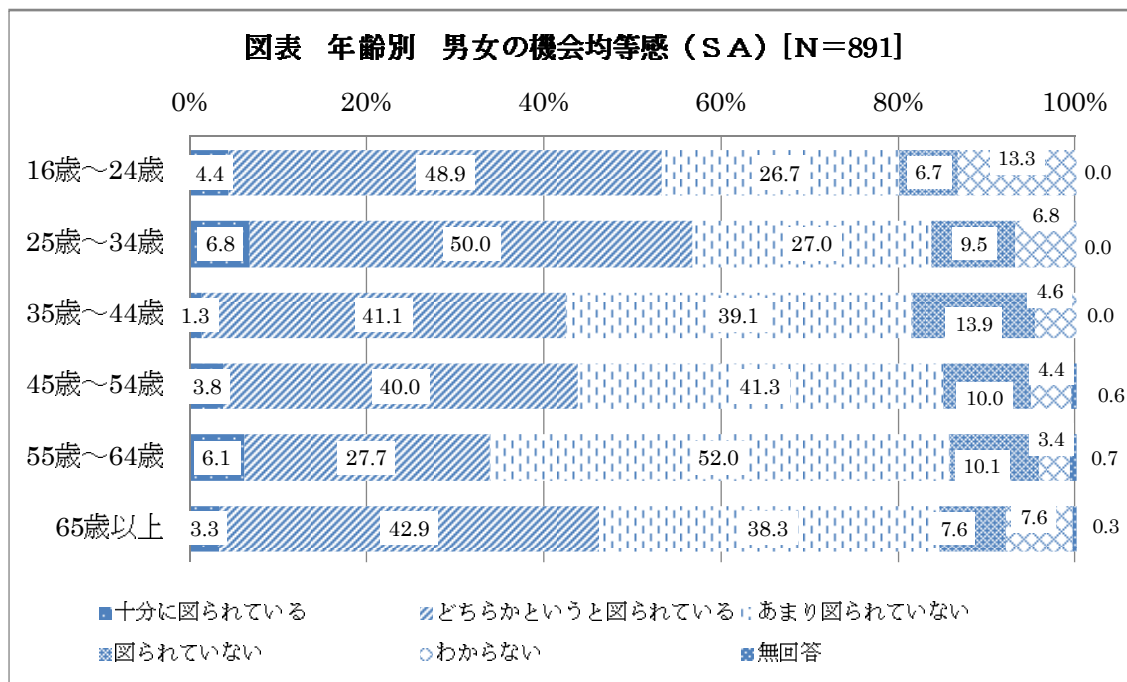


今回、新たに設けられた質問である。社会における男女の機会均等について尋ねたところ、機会均等が「十分に図られている」と「どちらかという図られている」を合計すると44.1%、機会均等が「あまり図られていない」「図られていない」を合計すると49.5%となり、機会均等が図られていないと感じている人が5.4ポイント多くなった。

図表 性別 男女の機会均等感 (SA) [N=891]



それを男女別にみていくと、「十分に図られている」と「どちらかという図られている」を合計した数字は女性で36.0%、男性で57.7%となり、男性が21.7ポイント上回った。逆に、「あまり図られていない」「図られていない」を合計すると女性が56.1%、男性が38.8%となり、女性が17.3ポイント上回った。



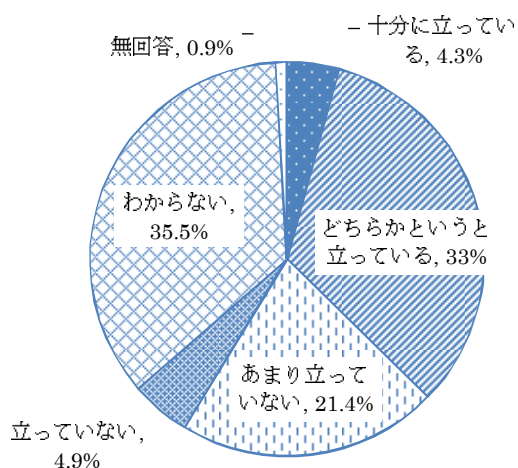
年齢別で詳細にみていくと、機会均等が「図られている」と感じている人は比較的若い年齢層に多く、「十分に図られている」「どちらかという図られている」を合計した数字で比較すると、「16～24歳」で53.3%、「25～34歳」で56.8%と半数を超え、その後漸減していき、もっとも機会均等が「図られている」と答えた人が少なかったのは「55～64歳」で33.8%であった。「65歳以上」では再度増加し、46.2%の人が「図られている」と答えている。

2. 男女共同参画社会実現に向けて

(1) 男女共同参画社会実現に必要な宝塚市の施策について

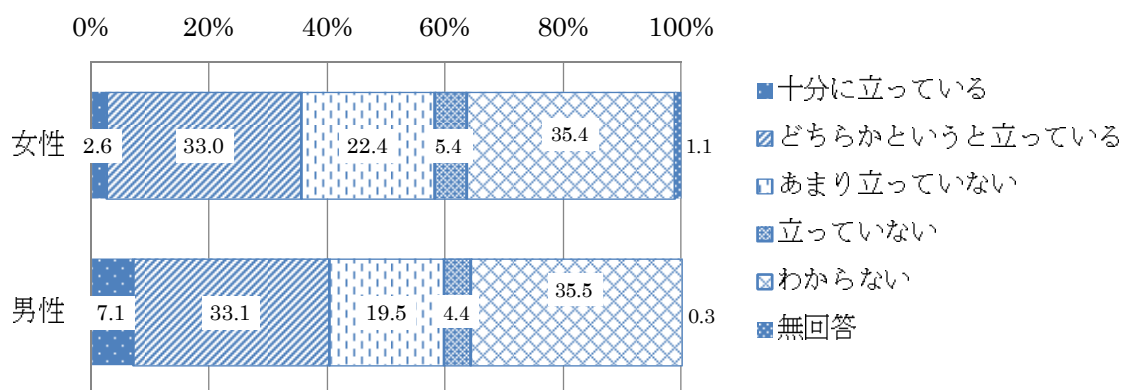
問3 あなたは、市の施策（市民を対象とする取組）が、男女共同参画の視点に立っていると思いますか。（回答は1つ）

図表 市の施策が男女共同参画の視点に立っているか（SA）



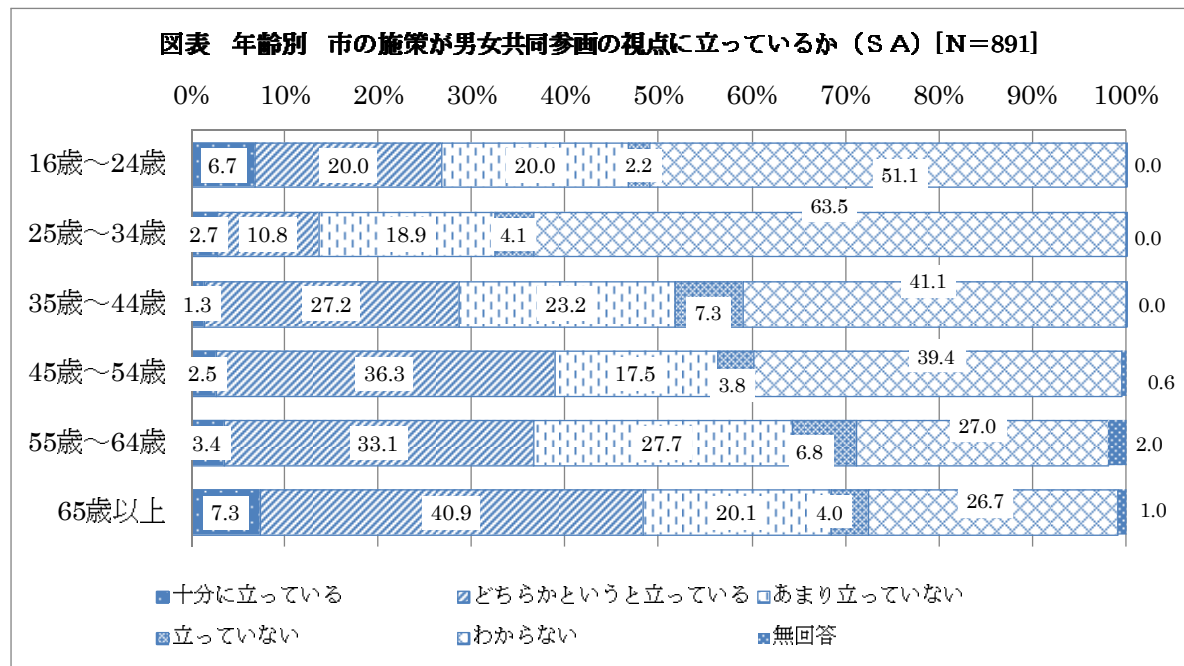
この質問も新たに設けられたものである。宝塚市の施策が男女共同参画の視点に立っているか尋ねたところ、「十分に立っている」「十分ではないが、どちらかという立っている」を合わせると37.3%、いっぽう「立っていない」「あまり立っていない」を合わせると26.3%となり、宝塚市の施策が男女共同参画の視点に立っていると感じている人が11.0ポイント上回った。ただ、「わからない」と答えた人も35.5%おり、全体の3割強が「立っている」と感じているに過ぎないことにも注意が必要である。

図表 性別 市の施策が男女共同参画の視点に立っているか（SA）
[N=891]



それを男女別にみていくと、女性で「立っている」と感じている人は「十分に」「どちらかという」とを合わせた35.6%であるが、男性では40.2%となり、女性の評価の方が厳

しいことがわかる。評価の厳しい女性においても「わからない」が35%以上いることも注記しておきたい点である。

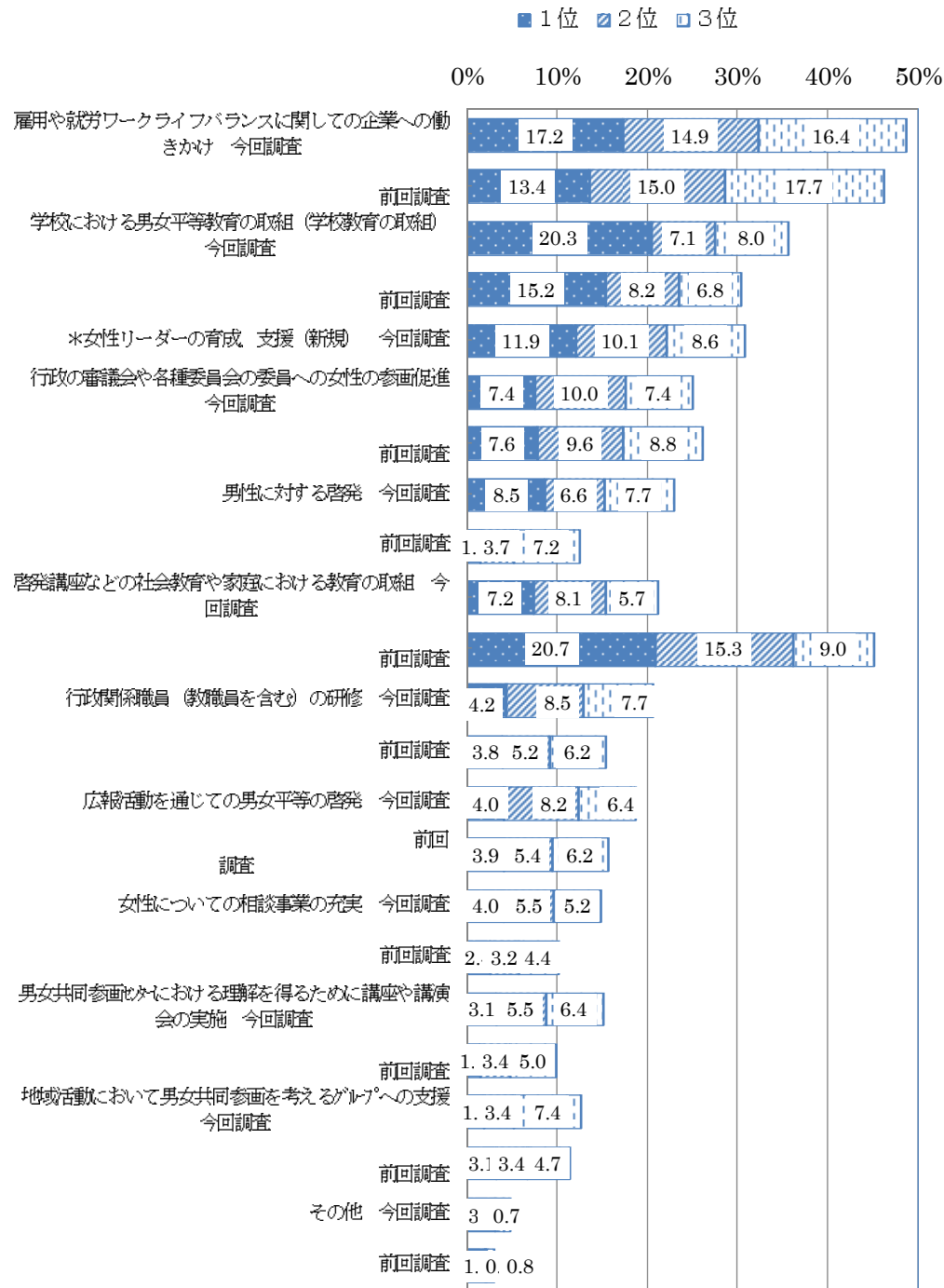


つぎに年齢別にみていくと、「25～34歳」が「立っている」と感じている人がもっとも少なく、「十分に」「どちらかという」と合わせて13.5%、あとは年齢順に高くなっていき、「65歳以上」では48.2%とほぼ半数の人が宝塚市の施策は男女共同参画の視点に立っていると感じていることがわかる。

また、全体でも35.0%を占める「わからない」を年齢別にみると、評価の厳しい「25～34歳」で63.5%と半数を大きく上回り、それより若い「16～24歳」でも51.1%と、若い世代の半数以上が「わからない」と答えていることが大きく目立つ。逆に「わからない」と答えた人は年齢が高くなると少なくなり、もっとも評価の良かった「65歳以上」では26.7%にまで落ちている。

問4 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、宝塚市はどのようなことをする必要がありますか。
 次の中から必要と思われる項目を3つ選んで、その中でより必要性の高いと思う順に、右の回答欄に項目番号をご記入ください。

図表 男女共同参画社会実現のために必要な宝塚市の施策（SA）



*は今回の新項目

男女共同参画社会実現にむけて、宝塚市が講じなければならない施策を尋ねたところ、第1位に挙げられた項目のなかでもっとも回答者の多かったものは「学校における男女平等教育も取組」で20.3%、次いで多かったのは「雇用や就労、ワークライフバランスに関する企業への働きかけ」で17.2%、「女性リーダーの育成、支援」が11.9%と続いた。

回答者の選んだ1位から3位までを合計してみると、「雇用や就労、ワークライフバランスに関する企業への働きかけ」が48.5%ともっとも多く、以下「学校における男女平等教育も取組」が35.4%、「女性リーダーの育成、支援」が30.6%となった。

前回調査でも項目に若干の違いがあるが同様の質問が設定されているので比較してみた。「学校教育」を第1位として選択した人が前回の15.2%から今回は20.3%と5.1ポイント増加し、また、「社会教育、家庭教育の取組」を第1位とした人は前回の20.7%から今回の7.2%と13.5ポイント減少した。ただ、前回は、「学校教育における男女平等教育の取組」は単に「学校教育の取組」と表現され、また「社会教育、家庭教育」の前には「啓発講座など」という修飾句はつけられていない。それゆえ、今回回答者は「学校教育」のなかでもとりわけ男女平等教育に焦点をしばって選択した可能性があること、そして「社会教育、家庭教育」も限定的に捉えた可能性があり、単純に比較することには慎重であらねばならない。

また1位から3位までの合計で前回調査と比較すると、前回も今回と同じく、もっとも多かったのはワークライフバランスなどの用語が入っていないが「雇用や就労などに関する企業への働きかけ」であった。次に多かった「社会教育、家庭教育の取組」が今回大幅に減少し、今回は「学校における男女平等教育の取組」、そして新項目の「女性リーダーの育成、支援」が続いた。

①性別

性別	1位	2位	3位	4位	5位
女性[N=536]	雇用や就労ワークライフバランスに関する企業への働きかけ	学校における男女平等教育の取組	女性リーダーの育成、支援	行政の審議会や各種委員会の委員への女性の参画促進	啓発講座などの社会教育や家庭における教育の取組
	103.7	76.5	61.9	51.9	47.8
男性[N=338]	学校における男女平等教育の取組	雇用や就労ワークライフバランスに関する企業への働きかけ	女性リーダーの育成、支援	行政の審議会や各種委員会の委員への女性の参画促進	広報活動を通じての男女平等の啓発
	95.3	90.5	69.2	47.9	43.5
無回答[N=17]	広報活動を通じての男女平等の啓発	女性リーダーの育成、支援	雇用や就労ワークライフバランスに関する企業への働きかけ	学校における男女平等教育の取組	啓発講座などの社会教育や家庭における教育の取組
	64.7	52.9	52.9	47.1	47.1

※上位5位の順位については、選択肢ごとに1位は3点、2位は2点、3位は1点とし、それぞれの構成比に乗じた値の合計で順位づけをおこなった。

※紙数の関係上、前回調査のデータは省略した。

性別で見ると、女性で1位の「雇用や就労、ワークライフバランスに関しての企業への働きかけ」は男性では2位、女性の2位「学校における男女平等教育も取組」が男性で1位、3位は男女とも新項目の「女性リーダーの育成、支援」であった。

前回と比べると、女性の1位は変わっていないが、「啓発講座などの社会教育や家庭教育の取組」（前は「社会教育、家庭教育の取組」）が前回の2位から5位と順位を落とし、前回4位の「学校における男女平等教育の取組」（前は「学校教育の取組」）が2位に上がっている。男性では前回1位の「啓発講座などの社会教育や家庭教育の取組」（前は「社会教育、家庭教育の取組」）は上位5位には入らず、前回2位の「学校における男女平等教育の取組」（前は「学校教育の取組」）が1位となった。

②年齢別

性別	1位	2位	3位	4位	5位
16～24歳[N=45]	雇用や就労ワークライフバランスに関しての企業への働きかけ	学校における男女平等教育の取組	啓発講座などの社会教育や家庭における教育の取組	女性リーダーの育成、支援	広報活動を通じての男女平等の啓発
	113.3	86.7	73.3	62.2	62.2
25～34歳[N=74]	雇用や就労ワークライフバランスに関しての企業への働きかけ	女性リーダーの育成、支援	行政の審議会や各種委員会の委員への女性の参画促進	学校における男女平等教育の取組	女性についての相談事業の充実
	133.8	85.1	59.5	58.1	54.1
35～44歳[N=151]	雇用や就労ワークライフバランスに関しての企業への働きかけ	女性リーダーの育成、支援	学校における男女平等教育の取組	男性に対する啓発	行政の審議会や各種委員会の委員への女性の参画促進
	139.1	80.1	66.2	66.2	38.4
45～54歳[N=160]	雇用や就労ワークライフバランスに関しての企業への働きかけ	学校における男女平等教育の取組	啓発講座などの社会教育や家庭における教育の取組	男性に対する啓発	行政関係職員(教職員を含む)の研修
	105.0	85.0	66.9	55.6	47.5
55～64歳[N=148]	雇用や就労ワークライフバランスに関しての企業への働きかけ	学校における男女平等教育の取組	女性リーダーの育成、支援	行政の審議会や各種委員会の委員への女性の参画促進	男性に対する啓発
	102.7	95.3	65.5	58.1	51.4
65歳以上[N=308]	学校における男女平等教育の取組	女性リーダーの育成、支援	行政の審議会や各種委員会の委員への女性の参画促進	雇用や就労ワークライフバランスに関しての企業への働きかけ	啓発講座などの社会教育や家庭における教育の取組
	187.5	116.2	67.0	59.1	49.8

※上位5位の順位については、選択肢ごとに1位は3点、2位は2点、3位は1点とし、それぞれの構成比に乗じた値の合計で順位づけをおこなった。

※紙数の関係上、前回調査のデータは省略した。

年齢別にみると、1位は「65歳以上」を除いていずれの年代においても「雇用や就労、ワークライフバランスに関しての企業への働きかけ」がとなっており、2位は「16～24歳」と「45～54歳」、「55歳～64歳」で「学校における男女平等教育の取組」、「25～34歳」、「35～44歳」、「65歳以上」で「女性リーダーの育成、支援」となった。

前回と比べると、「65歳以上」の1位が前回の「啓発講座などの社会教育や家庭教育の取組」（前回は「社会教育、家庭教育の取組」）から「学校における男女平等教育の取組」（前回は「学校教育の取組」）となり、「55歳～64歳」の1位も前回は「啓発講座などの社会教育や家庭教育の取組」（前回は「社会教育、家庭教育の取組」）であったが今回は「雇用や就労、ワークライフバランスに関する企業への働きかけ」となっている。

③市内通算居住期間

性別	1位	2位	3位	4位	5位
3年未満[N=61]	雇用や就労ワークライフバランスに関する企業への働きかけ 118.0	学校における男女平等教育の取組 82.0	女性リーダーの育成、支援 80.3	行政の審議会や各種委員会の委員への女性の参画促進 63.9	啓発講座などの社会教育や家庭における教育の取組 52.5
3～5年未満[N=41]	雇用や就労ワークライフバランスに関する企業への働きかけ 107.3	学校における男女平等教育の取組 80.5	女性リーダーの育成、支援 73.2	行政の審議会や各種委員会の委員への女性の参画促進 58.5	行政関係職員(教職員を含む)の研修 58.5
5年～10年未満[N=84]	雇用や就労ワークライフバランスに関する企業への働きかけ 116.7	学校における男女平等教育の取組 86.9	女性リーダーの育成、支援 60.7	男性に対する啓発 59.5	啓発講座などの社会教育や家庭における教育の取組 58.3
10年～15年未満[N=94]	雇用や就労ワークライフバランスに関する企業への働きかけ 111.7	学校における男女平等教育の取組 74.5	女性リーダーの育成、支援 63.8	男性に対する啓発 58.5	行政の審議会や各種委員会の委員への女性の参画促進 51.1
15年～20年未満[N=108]	雇用や就労ワークライフバランスに関する企業への働きかけ 101.9	学校における男女平等教育の取組 80.6	男性に対する啓発 63.9	女性リーダーの育成、支援 63.0	行政の審議会や各種委員会の委員への女性の参画促進 51.9
20年以上[N=453]	雇用や就労ワークライフバランスに関する企業への働きかけ 91.4	学校における男女平等教育の取組 90.3	女性リーダーの育成、支援 63.1	行政の審議会や各種委員会の委員への女性の参画促進 50.3	啓発講座などの社会教育や家庭における教育の取組 44.8

※上位5位の順位については、選択肢ごとに1位は3点、2位は2点、3位は1点とし、それぞれの構成比に乗じた値の合計で順位づけをおこなった。

※紙数の関係上、前回調査のデータは省略した。

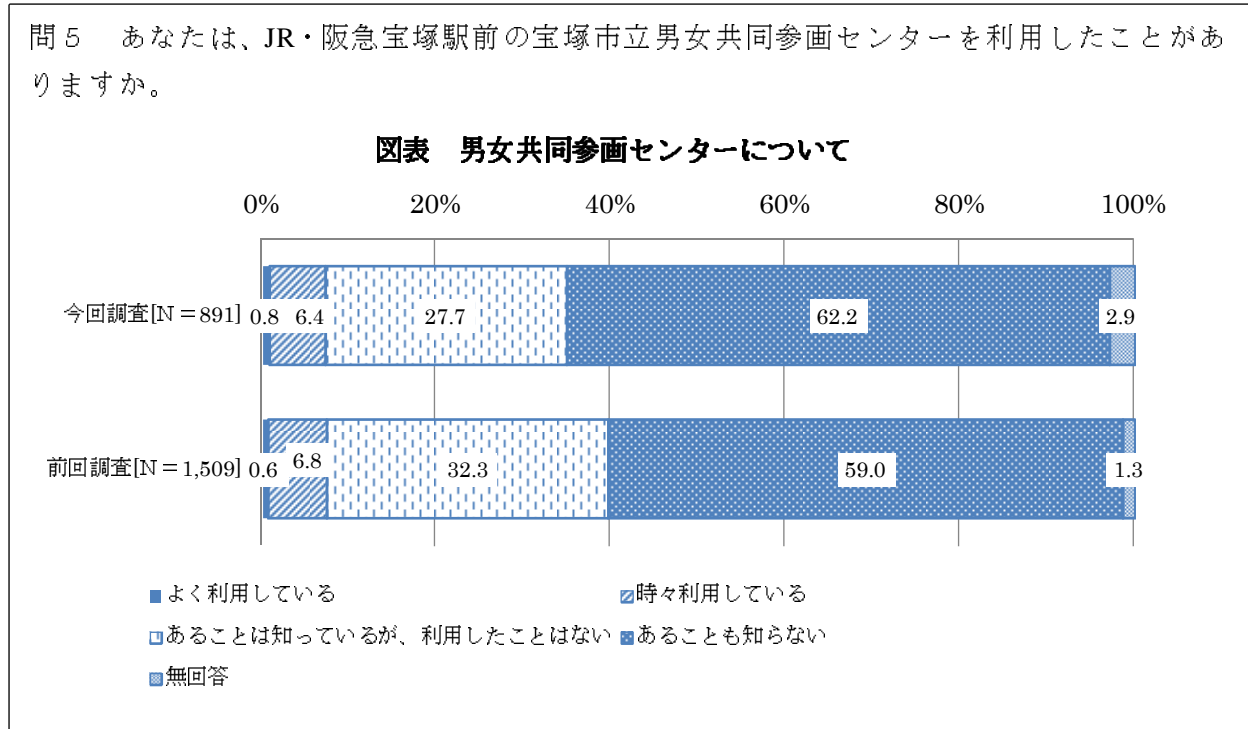
市内通算居住期間別にみていくと、いずれの居住期間においても1位は「雇用や就労、ワークライフバランスに関する企業への働きかけ」であった。2位もいずれの居住期間でも「学校における男女平等教育の取組」となった。3位は「15～20年未満」のみ「男性に対する啓発」が挙げられているが、それ以外は「女性リーダーの育成、支援」であった。

前回は、「3年未満」の居住者のみ「雇用や就労、ワークライフバランスに関する企業への働きかけ」（前回は「雇用や就労などに関する企業への働きかけ」）を1位に選んでいたが、今回はすべての居住期間で1位となった点が大きな変化である。また「学校における男女平等教育の取組」（前回は「学校教育の取組み」）がいずれの居住期間でも4位であったのに対し、今回はいずれも2位に順位が上がっている。

(2) 宝塚市立男女共同参画センターについて

①利用度・認知度

問5 あなたは、JR・阪急宝塚駅前の宝塚市立男女共同参画センターを利用したことがありますか。



宝塚市立男女共同参画センターについての利用度や認知度を尋ねたところ、「よく利用している」と答えた人は0.8%、「時々利用している」と答えた人は6.4%、「あることは知っているが利用したことはない」と答えた人が27.7%、「あることも知らない」と答えた人が62.2%となった。「あることも知らない」以外を合計すると34.9%となり、宝塚市立男女共同参画センターの認知度は回答者の3割に止まることがわかる。また「よく利用する」と「時々利用する」を合計すると7.2%となり、利用度はさらに低く1割に満たないことがわかる。

前回調査からは、「よく利用する」が0.2ポイント増加し、「時々利用している」が0.4ポイント減少したことから、利用度自体に大きな変化はない。また「あることは知っているが利用したことはない」は4.6ポイント減少し、「あることも知らない」は3.2ポイント増加しており、認知度にも大きな変化はないといえよう。ただし「あることも知らない」は前々回の42.6%、前回の59.0%、そして今回の62.2%と継続して増え続けていることに注意したい。

							(単位: %)
属性	項目	N数	よく利用している	時々利用している	あることは知っているが、利用したことはない	あることも知らない	無回答
性別	女性	536	0.9	7.6	31.7	56.7	3.0
	男性	338	0.6	4.4	21.9	70.7	2.4
年代	16歳～24歳	45	0.0	4.4	20.0	73.3	2.2
	25歳～34歳	74	1.4	4.1	16.2	78.4	0.0
	35歳～44歳	151	0.0	4.0	28.5	64.9	2.6
	45歳～54歳	160	0.0	7.5	28.1	62.5	1.9
	55歳～64歳	148	0.7	8.1	27.0	62.2	2.0
	65歳以上	303	1.7	6.9	31.7	55.4	4.3

男女別で分析すると、「よく利用している」「時々利用している」とともに女性が多く合計すると8.5%で、男性の合計5.0%を3.5ポイント上回った。また「あることは知っているが利用したことはない」も男性が21.9%、女性は31.7%と、女性が9.8ポイント上回った。いっぽう、「あることも知らない」人は女性が56.7%、男性70.7%と、男性のほうが14.0ポイント高かった。

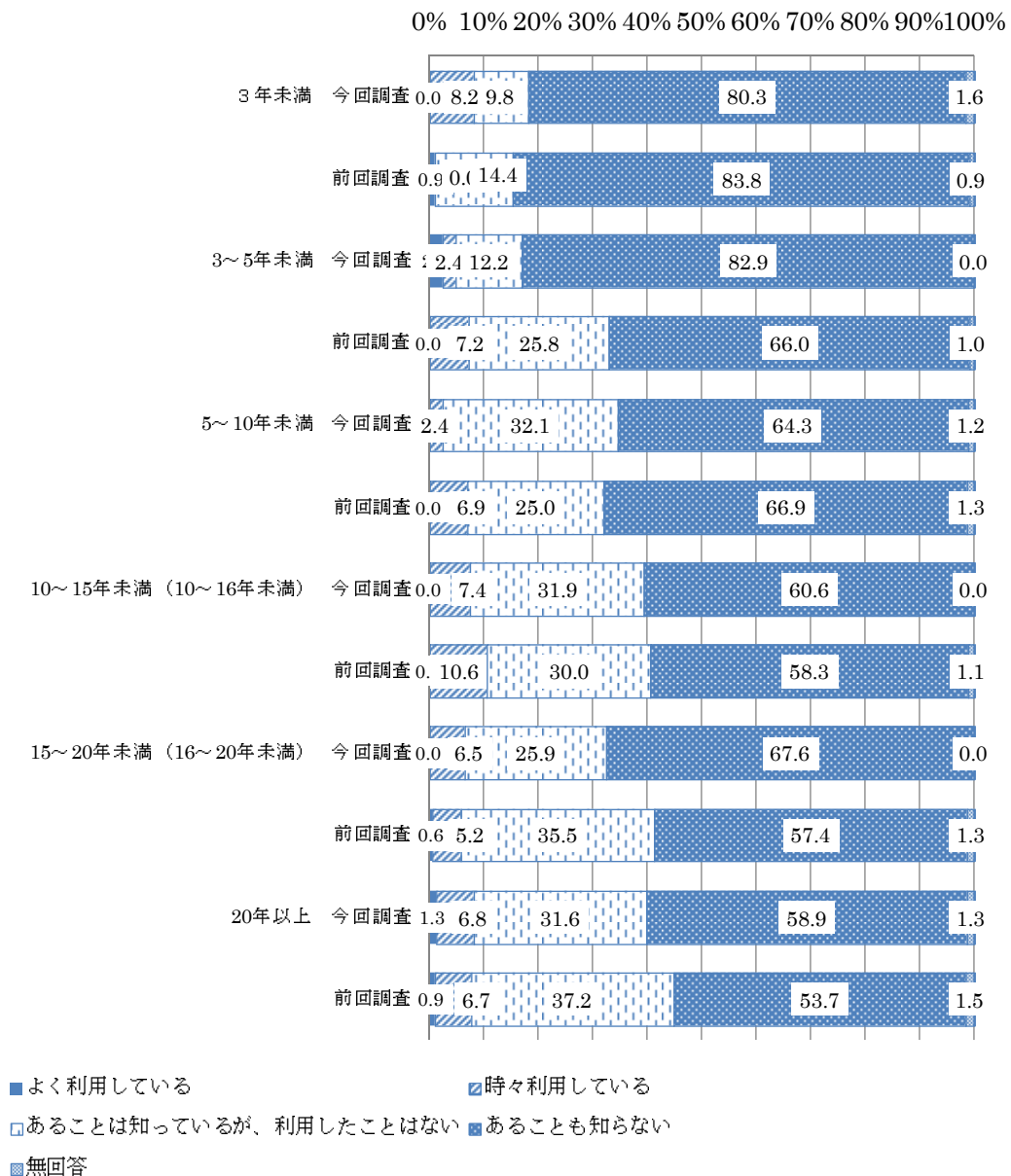
前回と比較すると、「よく利用している」「時々利用している」が女性で1.9ポイント減少しているが、男性では2.2ポイント増加しており、男女ともほぼ変わらないものの男性の利用率が若干上がったことがわかる。また「あることも知らない」が女性で4.6ポイント、男性で1.9ポイント増えている。この数字は上にも書いたが前々回から前回、そして今回へと男女とも増え続けている点に注意が必要である。

年齢別で違いをみると、「よく利用している」「時々利用している」を合わせた数字はほぼ年齢が上昇するにつれて多くなっており、もっとも少ない「16～24歳」で4.4%、もっとも多い「55～64歳」で8.8%となっている。逆に「あることも知らない」は年齢が上昇するにつれて減っており、一番少ない「65歳以上」で55.4%、一番多い「25～34歳」で78.4%となった。一番多いのが「16～24歳」とならなかったのは、比較的若い世代が交通アクセスの良い男女共同参画センターを自習などで利用することが多いといった背景があるのではないかと考えられる。

前回は「16～24歳」で「よく利用している」「時々利用している」がもっとも多く合計で14.6%あったが、今回はそこから10.2ポイント減少した。また「65歳以上」をのぞくいずれの年齢層においても「あることも知らない」が増加しており、とくに若い年齢層である「16～24歳」で10.1ポイント、「25～34歳」で9.6ポイント増えている点が目立っている。

参考 前回調査 性別・年齢別 宝塚市立男女共同参画センターについて(SA)							
							(単位: %)
属性	項目	N数	よく利用している	時々利用している	あることは知っているが、利用したことはない	あることも知らない	無回答
性別	女性	854	1.1	9.3	36.3	52.1	1.3
	男性	603	0.0	2.8	27.0	68.8	1.3
年代	16歳～24歳	117	0.9	13.7	22.2	63.2	0.0
	25歳～34歳	192	0.0	4.7	25.5	68.8	1.0
	35歳～44歳	214	0.5	7.5	32.7	58.9	0.5
	45歳～54歳	247	0.4	5.7	36.4	56.7	0.8
	55歳～64歳	314	0.3	7.0	35.7	56.1	1.0
	65歳以上	405	1.0	5.2	33.6	57.3	3.0

図表 市内通算居住期間別 男女共同参画センターの認知度・利用度



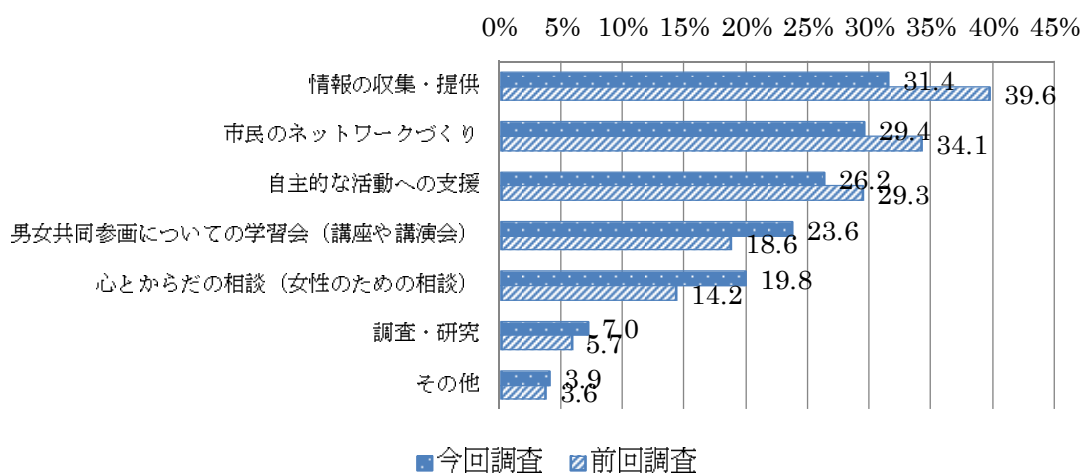
市内通算居住期間別で詳しくみると、「よく利用している」「時々利用している」を合わせた利用経験者は居住期間の長さとは比例せず「3年未満」にもっとも多く8.2%、ついで「20年以上」の8.1%、「10～15年未満」の7.4%、「3～5年未満」の4.8%と続き、もっとも利用した人が少ないのは「5～10年未満」の2.4%であった。「あることも知らない」はおおむね居住期間の少ないほど高くなり、「20年以上」では58.9%であったが、「3年未満」で80.3%、もっとも高い「3～5年未満」で82.9%となった。

前回調査と比較すると、「3年未満」の利用経験者が前回の0.9%から7.3ポイント増加した。「あることも知らない」人は「3年未満」では3.5ポイント、「5～10年未満」では2.6ポイント減少しているが、他のいずれの居住期間でも増えており、「20年以上」では5.2ポイント増加し、もっとも増加したのは「3～5年未満」の16.9ポイントであった。

②重要な業務について

問6 宝塚市立男女共同参画センターでは、男女共同参画に関する講座や情報誌の発行、図書の貸出、相談事業等を行っていますが、あなたが特に重要だと思うのは次のどれですか。（回答は2つ以内）

図表 男女共同参画センターの特に重要な業務について (MA)



男女共同参画センターにおける業務で、特に重要だと思う業務についてたずねたところ、「情報の収集・提供」がもっとも多く31.4%、ついで「市民のネットワークづくり」が29.4%、「自主的な活動への支援」が26.2%、「男女共同参画についての講座や講演会」が23.6%と続いた。前回とは表現の変わった項目「女性のための相談」はその次の19.8%となった。

前回は、「情報の収集・提供」がもっとも多く、以下、「市民のネットワークづくり」「自主的な活動への支援」「男女共同参画についての講座や講演会」と続いており、順番に大きな差はみられない。

図表 性別・年齢別 男女共同参画センターの特に重要な業務について(MA)

属性	項目	N数	(単位:%)							
			情報の収集・提供	市民のネットワークづくり	自主的な活動への支援	男女共同参画についての講座や講演会	女性のための相談	調査・研究	無回答	その他
性別	女性	536	34.7	28.0	24.8	21.8	21.8	7.5	6.2	3.9
	男性	338	26.9	32.5	28.4	26.6	16.9	6.5	5.3	5.6
年代	16歳～24歳	45	35.6	24.4	11.1	24.4	24.4	11.1	2.2	0.0
	25歳～34歳	74	36.5	32.4	23.0	12.2	21.6	6.8	1.4	8.1
	35歳～44歳	151	36.4	30.5	22.5	19.2	24.5	9.9	3.3	2.0
	45歳～54歳	160	36.9	27.5	23.1	22.5	18.8	8.1	5.0	4.4
	55歳～64歳	148	25.7	35.1	25.0	21.6	19.6	8.8	6.1	5.4
	65歳以上	303	26.7	27.4	33.0	30.0	17.2	3.6	9.9	3.6

男女別では、女性と男性で上位2つの業務が微妙にずれた。女性の第1位は「情報の収集・提供」で34.7%、第2位は「市民のネットワークづくり」で28.0%であったが、男性の第1位は「市民のネットワークづくり」で32.5%、第2位が「自主的な活動への支援」で28.4%であった。

前回と比較すると、「情報の収集・提供」を選択した男性が減少し、前回と表現が変わったからか（前は「心とからだの相談」）、「女性のための相談」を選択した女性が増加した。

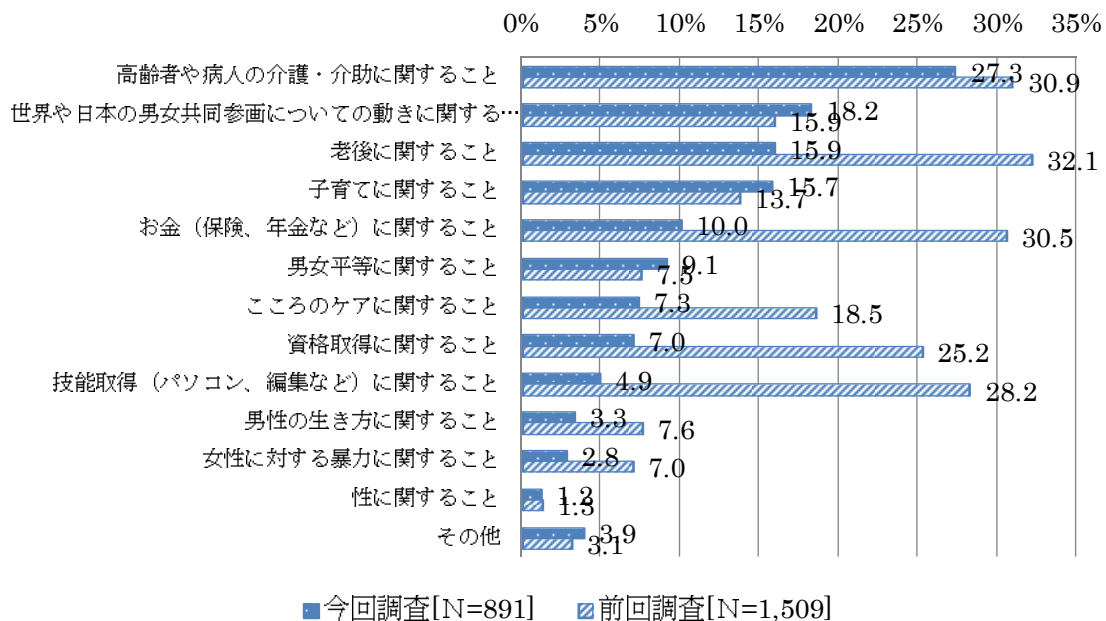
年齢別で見ると、16～64歳のいずれの年齢層においても、「情報の収集・提供」と「市民のネットワークづくり」が第1位・2位を占めた。「65歳以上」では、「自主的な活動への支援」が第1位、「男女共同参画についての講座や講演会」が第2位となった。これも前回と比較すると、16～64歳の傾向に大きな差はみられないが、「65歳以上」で「情報の収集・提供」が第1位から第4位へと大きく順位を落とした。

参考 前回調査 性別・年齢別 男女共同参画センターの特に重要な業務について(MA)										
(単位:%)										
属性	項目	N数	情報の収集・提供	市民のネットワークづくり	自主的な活動への支援	男女共同参画についての講座や学習会	心とからだの相談	調査・研究	その他	無回答
性別	女性	854	40.9	33.0	27.9	18.3	14.5	5.5	3.0	6.4
	男性	603	38.1	36.3	31.2	19.2	13.4	6.0	4.0	4.8
年代	16歳～24歳	117	45.3	32.5	32.5	12.0	14.5	12.0	1.7	0.0
	25歳～34歳	192	46.9	33.9	21.9	12.0	16.1	9.4	2.6	3.1
	35歳～44歳	214	50.0	38.3	24.3	13.6	13.6	8.4	3.7	1.9
	45歳～54歳	247	39.7	33.2	34.4	19.0	13.0	5.3	3.2	4.5
	55歳～64歳	314	35.4	39.5	32.2	26.4	11.5	2.9	3.8	5.1
	65歳以上	405	32.1	28.6	28.9	19.8	16.8	3.0	4.7	12.8

③参加したい講座

問7 あなたは、宝塚市立男女共同参画センターで、どのような講座があれば参加したいですか。（回答は3つ以内）

図表 男女共同参画センターで参加したい講座 (MA)



男女共同参画センターで参加したい講座を問うたところ、「高齢者や病人の介護・介助に関すること」がもっとも多く27.3%、次いで「世界や日本の男女共同参画についての動きに関すること」が18.2%、「老後に関すること」が15.9%、「子育てに関すること」が15.7%、「お金に関すること」が10.0%と続いた。

前回は「老後に関すること」が1位、「高齢者や病人の介護・介助に関すること」が2位であり、いずれも高齢者問題に関することが上位を占めていることに変わりはないが、「技能取得に関すること（パソコン、編集など）」が23.3ポイント、「資格取得に関すること」も18.2ポイント前回から減少するなど、自らのスキルアップを目指す項目が大幅に減少している。

図表 性別・年代別 参加したい講座について(MA)

属性	項目	N数	高齢者や病人の介護・介助に関すること	世界や日本の男女共同参画についての動きに関すること	老後に関すること	子育てに関すること	お金（保険、年金など）に関すること	男女平等に関すること	こころのケアに関すること	資格取得に関すること	技能取得（パソコン、編集など）に関すること	男性の生き方に関すること	女性に対する暴力に関すること	性に関すること	その他	無回答
性別	女性	538	31.9	16.0	20.5	17.2	15.1	8.4	11.0	10.3	7.1	3.0	4.3	1.3	2.6	7.3
	男性	338	20.1	21.6	8.6	13.9	2.1	9.8	1.8	2.1	1.8	3.8	0.6	1.2	5.9	6.8
年代	16歳～24歳	45	17.8	11.1	8.9	22.2	13.3	20.0	20.0	6.7	4.4	6.7	8.9	0.0	0.0	0.0
	25歳～34歳	74	12.2	9.5	5.4	48.6	13.5	6.8	2.7	17.6	6.8	2.7	2.7	5.4	6.3	1.4
	35歳～44歳	151	16.6	13.2	9.9	32.5	13.2	6.6	7.9	12.6	8.6	4.0	3.3	1.3	2.6	6.6
	45歳～54歳	160	25.6	21.3	18.1	11.3	7.5	4.4	5.6	10.6	6.3	3.8	3.1	0.6	5.6	5.6
	55歳～64歳	148	32.4	16.9	20.9	7.4	12.8	9.5	12.2	2.7	5.4	4.1	3.4	1.4	4.7	7.4
	65歳以上	303	36.6	22.4	19.1	5.0	4.0	10.9	5.0	1.7	2.0	2.0	1.3	0.7	3.3	10.6

性別で詳細にみると、女性の上位3つは「高齢者や病人の介護・介助に関すること」が31.9%、「老後に関すること」20.5%、「子育てに関すること」17.2%と続き、男性の上位3つは「世界や日本の男女共同参画について」が21.6%、「高齢者や病人の介護・介助に関すること」が20.1%、「子育てに関すること」が13.9%と続いた。

前回と比べると、男性で「お金に関すること」が26.3ポイント、「技能取得に関すること」が23.4ポイント、「資格取得に関すること」が19.5ポイントと大幅に減少している。また女性でも「技能取得に関すること」が23.9ポイント、「資格取得に関する事」が17.7ポイント減少している。

年齢別に上位3つをみていくと、「16～24歳」は「子育てに関すること」22.2%、「男女平等に関すること」と「こころのケアに関すること」が同じく20.0%、「高齢者や病人の介護・介助に関すること」が17.8%であった。「25～34歳」では「子育てに関すること」が48.6%、「資格取得に関すること」が17.6%、「お金に関すること」が13.5%で上位3つを占めた。「35～44歳」では「子育てに関すること」が32.5%、「高齢者や病人の介護・介助に関すること」が16.6%、その次に「お金に関すること」と「世界や日本の男女共同

参画についての動きに関すること」が13.2%と続いた。「45～54歳」は「高齢者や病人の介護・介助に関すること」が25.6%、「世界や日本の男女共同参画についての動きに関すること」が21.3%、「老後に関すること」が18.1%となった。「55～64歳」では「高齢者や病人の介護・介助に関すること」が32.4%、「老後に関すること」が20.9%、「世界や日本の男女共同参画についての動きに関すること」が16.9%と続いた。そして「65歳以上」では、「高齢者や病人の介護・介助に関すること」が36.6%、「世界や日本の男女共同参画についての動きに関すること」が22.4%、「老後に関すること」が19.1%、と上位3つを占めた。比較的若い年齢層では「子育てに関すること」が、中年以降では「高齢者や病人の介護・介助に関すること」や「老後に関すること」が挙げられる傾向がうかがえる。

前回と比較すると、「16～24歳」で上位を占めていた「資格取得に関すること」が42.9ポイント、「技能取得に関すること」が34.9ポイント減少するなど、若い年齢層でスキルアップに関する項目が大幅に減少したことが目立つ。また「技能取得に関すること」は前回はいずれの年齢層においても10%以上を占めていたのが今回はいずれも一桁代となっていることも大きな変化である。

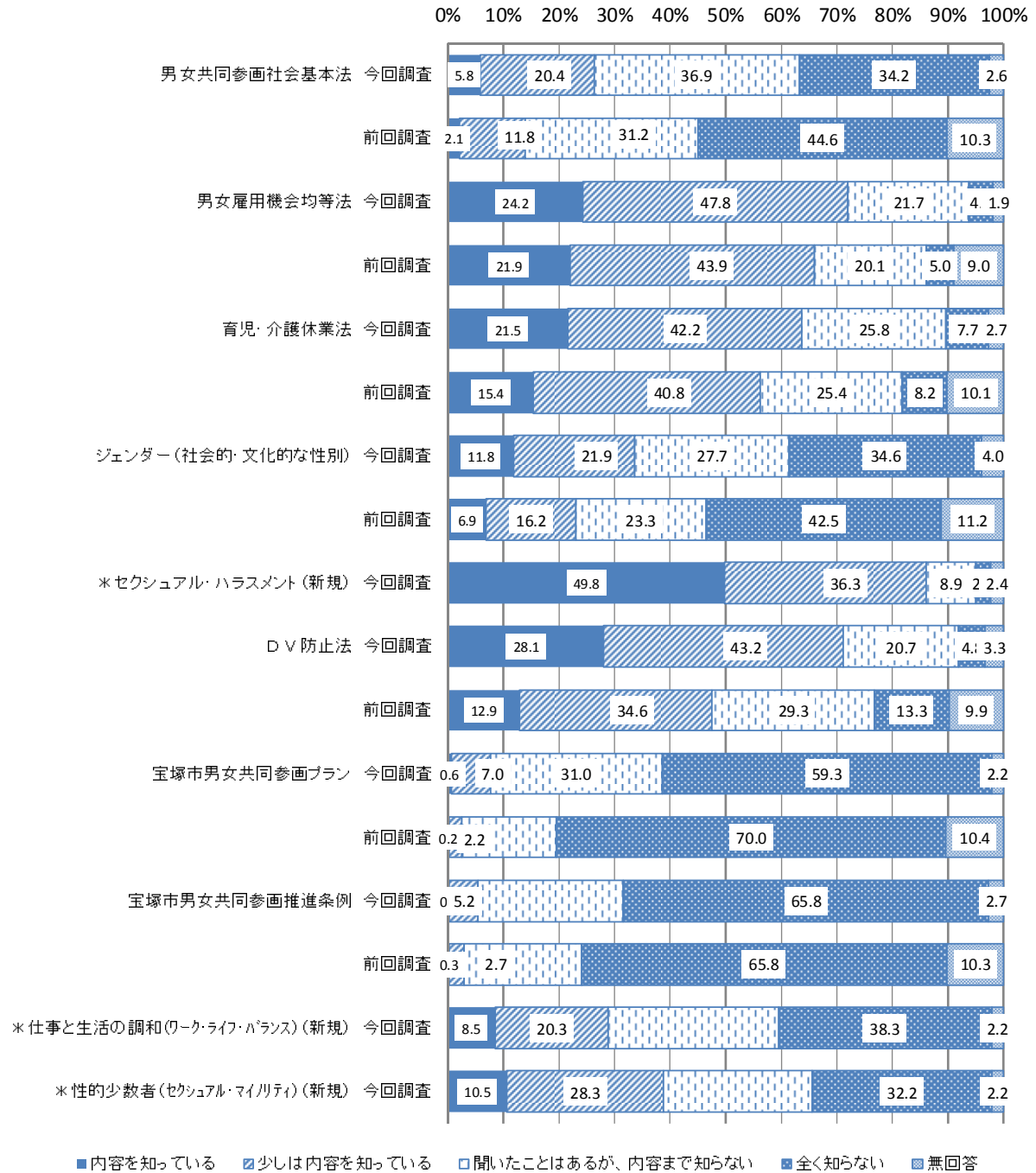
属性	項目	N数	老後に関すること	高齢者や病人の介護・介助に関すること	お金（保険、年金など）に関すること	技能取得（パソコン、編集など）に関すること	資格取得に関すること	こころのケアに関すること	世界や日本の男女共同参画についての動きに関すること	子育てに関すること	男性の生き方に関すること	男女平等に関すること	女性に対する暴力に関すること	性に関すること	その他
性別	女性	854	32.7	31.1	32.8	31.0	28.0	21.0	13.7	14.1	2.6	5.4	7.3	0.7	2.8
	男性	603	31.2	29.4	28.4	25.2	21.6	14.8	19.7	13.9	14.9	10.4	6.6	2.2	3.5
年代	16歳～24歳	117	9.4	14.5	34.2	39.3	49.6	19.7	19.7	12.8	5.1	7.7	16.2	2.6	2.6
	25歳～34歳	192	10.9	14.1	41.7	34.9	41.1	19.3	12.0	33.3	6.8	4.7	11.5	2.1	5.2
	35歳～44歳	214	12.6	23.8	36.9	36.0	39.3	20.6	12.1	32.7	3.3	7.9	9.3	1.9	2.3
	45歳～54歳	247	30.8	36.4	31.2	34.0	27.9	18.2	15.0	9.3	8.5	8.1	4.5	0.8	2.0
	55歳～64歳	314	49.7	39.5	34.4	26.1	15.6	17.5	16.2	4.8	7.0	7.3	5.1	0.3	3.2
	65歳以上	405	46.9	36.3	18.5	16.0	8.9	17.5	18.8	4.4	11.1	8.4	3.7	1.2	3.2

(3) 男女共同参画社会に関する法制度・計画・用語の認知について

問8 あなたは、次の①～⑩の言葉や法律を知っていますか。

①～⑩の項目ごとに当てはまる番号を1つ選んで○印をつけてください。

図表 男女共同参画に関する法制度・計画・用語の認知について(SA)



*は今回の新項目

男女共同参画社会に関する法制度・計画・用語の認知について尋ねたところ、「内容を知っている」「少しは知っている」を合わせた数字が半数以上を上回ったのは新項目の「セクシュアル・ハラスメント」の 86.1%を筆頭に、「男女雇用機会均等法」が 72.0%、「DV 防止法」が 71.3%、「育児・介護休業法」が 63.7%であった。今回取り入れた他の新項目については「ワークライフバランス」で 28.8%、「性的少数者」では 38.8%の人が知っている」と答えた。また「宝塚市男女共同参画推進条例」や「宝塚市男女共同参画プラン」では、5.5%、7.6%と認知度が非常に低く、9 割以上が「聞いたことはあるが、内容まで知らない」「全く知らない」と答えている。

前回と比べてみると、いずれの項目についても認知度は上がっており、「内容を知っている」「少しは知っている」を合わせた数字で見ると、「DV 防止法」で 23.8 ポイント、「男女共同参画社会基本法」で 12.3 ポイント、「ジェンダー（社会的・文化的性差）」で 10.6 ポイント上昇した。

①男女共同参画社会基本法

							(単位: %)
属性	項目	N数	内容を知っている	少しは内容を知っている	聞いたことはあるが、内容まで知らない	全く知らない	無回答
性別	女性	536	5.0	18.5	37.9	36.4	2.2
	男性	338	6.8	24.3	35.2	31.7	21.1
年代	16歳～24歳	45	15.6	33.3	40.0	11.1	0.0
	25歳～34歳	74	5.4	20.3	25.7	47.3	1.4
	35歳～44歳	151	2.6	13.9	39.7	43.7	0.0
	45歳～54歳	160	5.0	16.3	38.8	37.5	2.5
	55歳～64歳	148	6.1	24.3	29.7	39.2	0.7
	65歳以上	303	6.3	22.1	40.6	26.1	5.0

男女共同参画社会基本法についての性別の認知度は、「内容を知っている」「少しは知っている」を合わせた「知っている」人は女性で 23.5%、男性で 31.1%で、男性が 7.6 ポイント上回っている。

前回と比べると、男女とも認知度がかなり増加しており、女性で 11.1 ポイント、男性で 14.7 ポイント増えている。

年齢別でみると、「16～24 歳」で「知っている」人が 48.9%と半数に迫る勢いであることが目立つ。他の年齢層では年齢と「知っている」人の割合に有意な関係性はなく、もっとも知っている人が多い「55～64 歳」でも 30.4%と三分の一に満たない。

前回と比べてみると、いずれの年齢層でも「知っている」人は増加し、とくに「16～24 歳」で 13.7%から 3 倍以上の認知度となり、35.2 ポイントも増加している。ついで増加率の高かったのは「25～34 歳」で 15.8 ポイントの増加、その次には「65 歳以上」の 14.8 ポイントと続き、年齢と増加率にも有意な相関関係はない。

参考 前回調査 男女共同参画社会基本法の認知度(SA)							
							(単位:%)
属性	項目	N数	内容を知っている	少しは内容を知っている	聞いたことはあるが、内容まで知らない	全く知らない	無回答
性別	女性	854	1.5	10.9	29.7	48.0	9.8
	男性	603	3.0	13.4	33.8	40.3	9.5
年代	16歳～24歳	117	1.7	12.0	27.4	58.1	0.9
	25歳～34歳	192	1.0	8.9	29.2	59.4	1.6
	35歳～44歳	214	1.9	9.8	35.5	47.7	5.1
	45歳～54歳	247	2.8	14.2	25.9	52.2	4.9
	55歳～64歳	314	1.9	14.6	31.8	41.1	10.5
	65歳以上	405	2.7	10.9	33.1	30.6	22.7

②男女雇用機会均等法

図表 性別・年齢別 男女雇用機会均等法の認知度(SA)							
							(単位:%)
属性	項目	N数	内容を知っている	少しは内容を知っている	聞いたことはあるが、内容まで知らない	全く知らない	無回答
性別	女性	536	22.2	49.6	21.6	4.7	1.9
	男性	338	27.5	45.9	21.6	3.8	1.2
年代	16歳～24歳	45	20.0	53.3	22.2	4.4	0.0
	25歳～34歳	74	21.6	45.9	24.3	6.8	1.4
	35歳～44歳	151	24.5	53.0	18.5	4.0	0.0
	45歳～54歳	160	26.3	49.4	18.1	4.4	1.9
	55歳～64歳	148	29.1	48.0	18.2	4.7	0.0
	65歳以上	303	22.1	44.2	26.1	4.0	3.6

男女雇用機会均等法について性別で見ると、「内容を知っている」「少しは知っている」を合わせた「知っている」人は女性で71.8%、男性で73.4%で、男女とも7割を超える認知度になっている。

前回と比べると、男女とも認知度は増加しており、女性で8.3ポイント、男性で2.5ポイント増えた。

年齢別の違いでは、もっとも「知っている」人が多いのは「35～44歳」で77.5%、ついで「55～64歳」で77.1%、もっとも少ない「65歳以上」でも66.3%と、いずれの年齢層でも認知度は高いといえる。

前回と比較すると、「65歳以上」で17.7ポイント、「55～64歳」で9.9ポイント、「45～54歳」で8.1ポイントと高い年齢層で増加したが、「16～24歳」で2.8ポイント、「25～34歳」で10.1ポイント、「35～44歳」で1.9ポイントと、若い年齢層ではいずれも減

少している。

参考 前回調査 男女雇用機会均等法の認知度(SA)							(単位:%)	
属性	項目	N数	内容を知っている	少しは内容を知っている	聞いたことはあるが、内容まで知らない	全く知らない	無回答	
性別	女性	854	19.9	43.6	23.8	4.6	8.2	
	男性	603	25.0	45.9	15.1	5.1	8.8	
年代	16歳～24歳	117	28.2	47.9	14.5	8.5	0.9	
	25歳～34歳	192	26.6	51.0	17.2	3.6	1.6	
	35歳～44歳	214	26.6	52.8	14.5	2.3	3.7	
	45歳～54歳	247	17.0	50.6	24.3	3.2	4.9	
	55歳～64歳	314	23.9	43.3	20.7	6.4	5.7	
	65歳以上	405	17.0	31.6	22.7	6.2	22.5	

③育児・介護休業法

図表 性別・年齢別 育児・介護休業法の認知度(SA)							(単位:%)	
属性	項目	N数	内容を知っている	少しは内容を知っている	聞いたことはあるが、内容まで知らない	全く知らない	無回答	
性別	女性	536	22.6	44.2	24.6	6.3	2.2	
	男性	338	19.8	39.6	28.4	9.8	2.4	
年代	16歳～24歳	45	22.2	51.1	20.0	6.7	0.0	
	25歳～34歳	74	18.9	41.9	28.4	9.5	1.4	
	35歳～44歳	151	26.5	37.7	26.5	7.3	2.0	
	45歳～54歳	160	21.9	45.6	25.6	6.3	0.6	
	55歳～64歳	148	24.3	43.9	25.0	5.4	1.4	
	65歳以上	303	18.2	40.6	26.7	9.6	5.0	

育児・介護休業法を性別で見ると、「内容を知っている」「少しは知っている」を合わせた「知っている」人は女性で66.8%、男性で59.4%と、女性が7.4ポイント男性を上回った。

前回と比べると、男女とも認知度は増加しており、それぞれ6.9ポイント増えた。

年齢別の違いでは、もっとも「知っている」人が多いのは「16～24歳」で73.3%、ついで「55～64歳」で68.2%、もっとも少ない「65歳以上」でも58.8%と、いずれの年齢層でも認知度は過半を超えている。

前回と比較すると、「25～34歳」で8.5ポイント、「35～44歳」で6.3ポイント減少しているが、「65歳以上」で21.0ポイント、「16～24歳」で18.6ポイント、「45～54歳」で6.8ポイント、「54～64歳」で8.3ポイント増加している。

参考 前回調査 育児・介護休業法の認知度(SA)							
							(単位:%)
属性	項目	N数	内容を知っている	少しは内容を知っている	聞いたことはあるが、内容まで知らない	全く知らない	無回答
性別	女性	854	16.7	43.2	24.2	6.9	8.9
	男性	603	13.4	39.1	27.4	9.8	10.3
年代	16歳～24歳	117	20.5	34.2	30.8	12.0	2.6
	25歳～34歳	192	22.4	46.9	22.4	6.8	1.6
	35歳～44歳	214	18.2	52.3	19.6	5.6	4.2
	45歳～54歳	247	11.3	49.4	28.7	5.7	4.9
	55歳～64歳	314	15.0	44.9	25.5	7.3	7.3
	65歳以上	405	11.9	25.9	26.2	11.4	24.7

④ジェンダー（社会的・文化的性差）

図表 性別・年齢別 ジェンダーの認知度(SA)							
							(単位:%)
属性	項目	N数	内容を知っている	少しは内容を知っている	聞いたことはあるが、内容まで知らない	全く知らない	無回答
性別	女性	536	10.4	22.8	28.5	35.1	3.2
	男性	338	13.6	21.3	26.9	34.0	4.1
年代	16歳～24歳	45	11.1	40.0	24.4	24.4	0.0
	25歳～34歳	74	18.9	31.1	24.3	24.3	1.4
	35歳～44歳	151	13.2	19.2	31.1	34.4	2.0
	45歳～54歳	160	13.1	20.6	26.9	36.9	2.5
	55歳～64歳	148	11.5	25.0	25.7	36.5	1.4
	65歳以上	303	8.9	17.5	29.4	36.6	7.6

ジェンダー（社会的・文化的性差）の男女別の認知度は、「内容を知っている」「少しは知っている」を合わせた「知っている」人は女性で33.2%、男性で34.9%と、男女で目立った違いはなかった。

前回と比べると、男女とも認知度は増加しており、女性で10.2ポイント、男性で10.8ポイントと、いずれも10ポイント以上増加した。

年齢別の違いでは、「知っている」人が多いのは「16～24歳」で51.1%、「25～34歳」で50.0%と半数を超えるが、他の年齢層では「35～44歳」で32.4%、「45～54歳」で33.7%、「55～64歳」で36.5%、「65歳以上」では26.4%と、3割前後となっている。前回と比較すると、いずれの年齢層でも認知度は増加しており、「25～34歳」で20.3ポイント増えたのを皮切りに、「55～64歳」で14.2ポイント、「65歳以上」でも13.6ポイント増加した。もっとも増加率が低かったのは「35～44歳」の3.9ポイントであった。

参考 前回調査 ジェンダーの認知度(SA)							
							(単位:%)
属性	項目	N数	内容を知っている	少しは内容を知っている	聞いたことはあるが、内容まで知らない	全く知らない	無回答
性別	女性	854	7.0	16.0	23.0	43.6	10.4
	男性	603	7.0	17.1	24.0	42.0	10.0
年代	16歳～24歳	117	16.2	29.9	23.9	29.1	0.9
	25歳～34歳	192	9.4	20.3	24.5	44.3	1.6
	35歳～44歳	214	7.0	21.5	24.8	42.1	4.7
	45歳～54歳	247	6.9	14.2	28.7	45.3	4.9
	55歳～64歳	314	5.4	16.9	22.0	47.5	8.3
	65歳以上	405	4.4	8.4	19.0	40.5	27.7

⑤セクシュアル・ハラスメント

図表 性別・年齢別 セクシュアル・ハラスメントの認知度(SA)							
							(単位:%)
属性	項目	N数	内容を知っている	少しは内容を知っている	聞いたことはあるが、内容まで知らない	全く知らない	無回答
性別	女性	536	48.5	36.6	9.5	3.4	2.1
	男性	338	53.0	35.5	7.7	1.8	2.1
年代	16歳～24歳	45	71.1	22.2	6.7	0.0	0.0
	25歳～34歳	74	63.5	27.0	5.4	2.7	1.4
	35歳～44歳	151	41.1	21.2	11.9	2.6	0.0
	45歳～54歳	160	53.8	36.9	6.3	0.6	0.6
	55歳～64歳	148	53.4	36.5	7.4	2.0	0.7
	65歳以上	303	35.6	40.9	13.2	5.0	5.3

「セクシュアル・ハラスメント」は新たに設けた項目である。その認知度を男女別で見ると、ともに非常に高く、「内容を知っている」「少しは知っている」を合わせた「知っている」人は女性で85.1%、男性で88.5%となっており、男性がわずかに3.4ポイント女性を上回った。

年齢別でみていくと、「知っている」人がもっとも多いのは「16～24歳」で93.3%、ついで「45～54歳」で90.7%、「25～34歳」で90.5%と9割を超えた。もっとも認知度の低かった「35～44歳」では62.3%であった。

⑧DV 防止法

(単位: %)							
属性	項目	N数	内容を知っている	少しは内容を知っている	聞いたことはあるが、内容まで知らない	全く知らない	無回答
性別	女性	536	28.2	42.5	20.7	5.0	3.5
	男性	338	28.1	45.0	20.1	4.7	2.1
年代	16歳～24歳	45	31.1	40.0	26.7	2.2	0.0
	25歳～34歳	74	10.8	16.2	21.6	50.0	1.4
	35歳～44歳	151	27.2	45.0	22.5	4.6	0.7
	45歳～54歳	160	33.1	47.5	16.3	2.5	0.6
	55歳～64歳	148	26.4	51.4	17.6	2.0	2.7
	65歳以上	303	25.1	38.9	22.1	7.3	6.6

DV 防止法の男女別の認知度については、「内容を知っている」「少しは知っている」を合わせた「知っている」人は男女とも多く、女性で 70.7%、男性で 73.1%となっており、男女で大きな違いはなかった。

前回と比べると、男女とも認知度は増加しており、女性で 20.2 ポイント、男性で 28.8 ポイントと、とくに男性の認知度が増していることがわかる。

年齢別の詳細では年齢層によるばらつきがあり、「知っている」人が多い順で並べると「45～54 歳」で 80.6%、「55～64 歳」で 77.8%、「35～44 歳」で 72.2%、「16～24 歳」で 71.1%、「65 歳以上」では 64.0%となるが、「25～34 歳」では急激に落ち込み 27.0%が「知っている」と答えているに過ぎない。また、この「25～34 歳」で「全く知らない」人が半数存在することには、注意を要する。

前回と比較すると、認知度の低かった「25～34 歳」の「知っている」人が 32.4 ポイント低くなったほかはいずれの年齢層でも増加しており、「65 歳以上」で 38.3 ポイント、「55～64 歳」で 29.4 ポイント、「45～54 歳」で 27.6 ポイントと高い年齢層で認知度が大きく増加している。また「16～24 歳」でも 17.3 ポイント認知度が増えた。

参考 前回調査 DV防止法の認知度(SA)							
							(単位:%)
属性	項目	N数	内容を知っている	少しは内容を知っている	聞いたことはあるが、内容まで知らない	全く知らない	無回答
性別	女性	854	14.2	36.3	29.3	11.1	9.1
	男性	603	11.1	33.2	30.2	16.4	9.1
年代	16歳～24歳	117	17.9	35.9	26.5	18.8	0.9
	25歳～34歳	192	16.7	42.7	26.0	12.5	2.1
	35歳～44歳	214	16.4	50.9	25.2	3.3	4.2
	45歳～54歳	247	15.8	37.2	32.8	10.1	4.0
	55歳～64歳	314	12.4	36.0	30.6	14.3	6.7
	65歳以上	405	6.9	18.8	30.4	18.8	25.2

⑦宝塚市男女共同参画プラン

図表 性別・年齢別 男女共同参画プランの認知度(SA)							
							(単位:%)
属性	項目	N数	内容を知っている	少しは内容を知っている	聞いたことはあるが、内容まで知らない	全く知らない	無回答
性別	女性	536	0.4	7.3	33.0	57.1	2.2
	男性	338	0.9	6.2	28.1	63.3	1.5
年代	16歳～24歳	45	0.0	4.4	22.2	73.3	0.0
	25歳～34歳	74	0.0	2.7	18.9	75.7	2.7
	35歳～44歳	151	0.0	0.7	23.8	75.5	0.0
	45歳～54歳	160	0.0	6.3	18.8	63.8	1.3
	55歳～64歳	148	2.0	6.8	31.8	58.8	0.7
	65歳以上	303	0.7	11.2	39.9	43.6	4.6

宝塚市男女共同参画プランの認知度を性別で見ると、「内容を知っている」「少しは知っている」を合わせた「知っている」人は男女とも非常に少なく、女性で7.7%、男性で7.1%であった。

前は宝塚市女性プランの認知度であったのでまったく同じではないが、比べてみると、男女とも認知度は増加しており、女性で5.3ポイント、男性で4.9ポイント増加した。

年齢別でもいずれの年齢層においても認知度は低く、もっとも「知っている」人が多い「65歳以上」で11.9%、ついで「55～64歳」で8.8%、「45～54歳」で6.3%と続き、一番認知度は低かったのは「34～44歳」で0.7%であった。

前回と比較すると、認知度がもっとも低かった「34～44歳」で1.7ポイント下がったが、他の年齢層では微増しており、もっとも認知度が上がったのは「65歳以上」で8.0ポイント上昇した。

参考 前回調査 宝塚市女性プランの認知度(SA)							
							(単位:%)
属性	項目	N数	内容を知っている	少しは内容を知っている	聞いたことはあるが、内容まで知らない	全く知らない	無回答
性別	女性	854	0.1	2.3	20.6	67.6	9.4
	男性	603	0.2	2.0	13.1	74.8	10.0
年代	16歳～24歳	117	0.0	0.0	12.0	87.2	0.9
	25歳～34歳	192	0.0	1.0	12.5	84.9	1.6
	35歳～44歳	214	0.5	1.9	17.3	76.2	4.2
	45歳～54歳	247	0.4	2.0	19.4	73.7	4.5
	55歳～64歳	314	0.0	2.2	23.2	66.6	8.0
	65歳以上	405	0.2	3.7	15.3	54.8	25.9

⑧宝塚市男女共同参画推進条例

図表 性別・年齢別 宝塚市男女共同参画推進条例の認知度(SA)							
							(単位:%)
属性	項目	N数	内容を知っている	少しは内容を知っている	聞いたことはあるが、内容まで知らない	全く知らない	無回答
性別	女性	536	0.0	5.6	27.8	63.8	2.8
	男性	338	0.9	4.4	23.4	69.5	
年代	16歳～24歳	45	0.0	4.4	20.0	75.6	0.0
	25歳～34歳	74	0.0	1.4	20.3	75.7	2.7
	35歳～44歳	151	0.0	0.0	19.2	79.5	1.3
	45歳～54歳	160	0.0	5.0	24.4	69.4	1.3
	55歳～64歳	148	0.7	4.1	28.4	66.9	0.0
	65歳以上	303	0.7	8.9	32.0	53.1	5.3

宝塚市男女共同参画推進条例について性別でみると、「内容を知っている」「少しは知っている」を合わせた「知っている」人は男女とも非常に少なく、女性で5.6%、男性で5.3%であった。

前回と比べると、男女とも認知度は微増しており、女性で3.2ポイント、男性ではほとんど変わらない1.6ポイントの増加であった。

年齢別の詳細でもいずれの年齢層においても認知度は低く、もっとも「知っている」人が多い「65歳以上」で9.6%、ついで「45～54歳」で5.0%、「55～64歳」で4.8%と続き、「34～44歳」では「知っている」と答えた人はいなかった。

前回と比較すると、「知っている」人のいなかった「34～44歳」で2.3ポイント下がったが、他の年齢層では微増しており、もっとも認知度が上がったのは「65歳以上」で4.9ポイント上昇した。

参考 前回調査 宝塚市男女共同参画推進条例の認知度(SA)							(単位:%)	
属性	項目	N数	内容を知っている	少しは内容を知っている	聞いたことはあるが、内容まで知らない	全く知らない	無回答	
性別	女性	854	0.2	2.2	23.5	64.4	9.6	
	男性	603	0.2	3.5	17.4	69.5	9.5	
年代	16歳～24歳	117	0.0	0.9	15.4	82.9	0.9	
	25歳～34歳	192	0.0	1.0	17.2	80.2	1.6	
	35歳～44歳	214	0.9	1.4	18.2	75.2	4.2	
	45歳～54歳	247	0.0	3.2	23.1	68.4	5.3	
	55歳～64歳	314	0.0	2.9	6.1	64.0	7.0	
	65歳以上	405	0.5	4.2	20.5	49.1	25.7	

⑨ワーク・ライフ・バランス

図表 性別・年齢別 ワーク・ライフ・バランスの認知度(SA)							(単位:%)	
属性	項目	N数	内容を知っている	少しは内容を知っている	聞いたことはあるが、内容まで知らない	全く知らない	無回答	
性別	女性	536	8.0	19.2	31.7	38.8	2.2	
	男性	338	9.5	22.2	29.6	37.3	1.5	
	25歳～34歳	74	16.2	24.3	25.7	31.1	2.7	
	35歳～44歳	151	12.6	21.9	28.5	37.1	0.0	
	45歳～54歳	160	8.1	15.0	31.3	38.8	0.6	
	55歳～64歳	160	8.1	15.0	31.3	38.8	0.6	
	65歳以上	303	4.6	17.8	34.3	38.3	5.0	

「ワーク・ライフ・バランス」は、今回新たに設けた項目である。その認知度について性別でみていくと、「内容を知っている」「少しは知っている」を合わせた「知っている」人は女性で27.2%、男性で31.7%となっており、男性のほうが4.5ポイント高かった。

年齢別では「知っている」人がもっとも多いのは「25～34歳」で40.5%、ついで「16～24歳」の35.5%、「35～44歳」で34.5%と続いた。もっとも認知度が低かったのは「65歳以上」で22.4%であった。

⑩性的少数者

図表 性別・年齢別 性的少数者の認知度(SA)							
							(単位: %)
属性	項目	N数	内容を知っている	少しは内容を知っている	聞いたことはあるが、内容まで知らない	全く知らない	無回答
性別	女性	536	12.7	26.1	26.9	31.7	2.6
	男性	338	7.7	32.0	27.2	32.2	0.9
年代	16歳～24歳	45	8.9	20.0	31.1	40.0	0.0
	35歳～44歳	151	12.6	31.1	27.8	28.5	0.0
	45歳～54歳	160	14.4	34.4	18.8	31.9	0.6
	55歳～64歳	148	12.8	29.7	29.1	28.4	0.0
	65歳以上	303	5.9	25.4	28.4	35.0	5.3

「性的少数者」も今回新たに設けた項目である。その男女別の認知度は「内容を知っている」「少しは知っている」を合わせた「知っている」人は女性で38.8%、男性で39.7%となっており、男女で大きな違いはなかった。

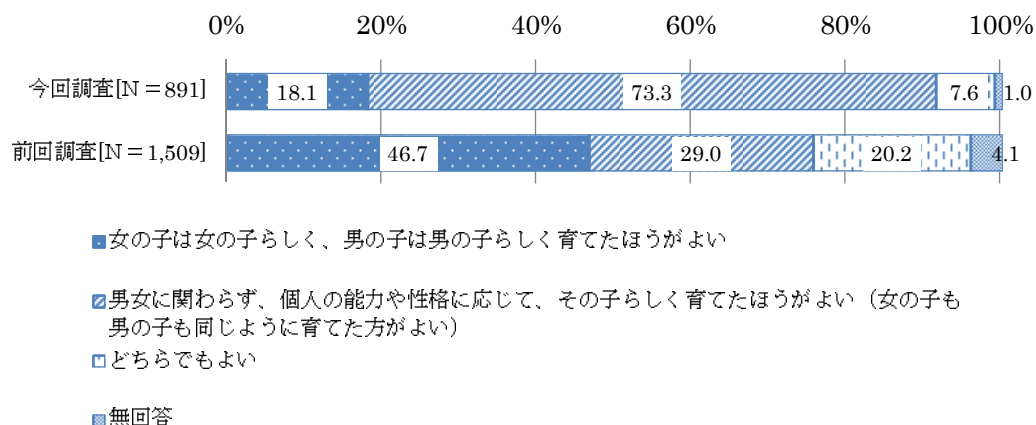
年齢別でみていくと、「知っている」人がもっとも多いのは「45～54歳」で48.8%、ついで「35～44歳」の43.7%、「55～64歳」の42.5%と続いた。もっとも認知度が低かったのは「16～24歳」の28.9%で、とりわけこの年齢層で「全く知らない」が40.0%とどの年齢層よりも多い点が目立っている。

3. 男女の役割分担について

(1) 子どもの教育について

問9 あなたは、「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」という育て方についてどう思いますか。（回答は1つ）

図表 子どもの育て方に対する考え（SA）



※（ ）は前回調査の項目

子どもの育て方について尋ねた問いである。「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」育てた方がよい」と答えた人が18.1%、「男女に関わらず、個人の能力や性格に応じて、その子らしく育てた方がよい」と答えた人が73.3%、「どちらでもよい」は7.6%となった。

前回の選択肢「女の子も男の子と同じように」育てた方がよい」が「男女に関わらず、個人の能力や性格に応じて、その子らしく育てた方がよい」と変わっているので単純に比較できないが、前回の調査では「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」育てた方がよい」と答えた人がもっとも多く46.7%と半数近かったのに対して、今回はそれを選択した人が28.6ポイントも減少し、半減した。

属性	項目	N数	女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよい	男女に関わらず、個人の能力や性格に応じて、その子らしく育てたほうがよい	どちらでもよい	無回答
性別	女性	536	13.6	78.4	7.1	0.9
	男性	338	25.4	65.7	8.3	0.6
年代	16歳～24歳	45	4.4	86.7	8.9	0.0
	25歳～34歳	74	14.9	73.0	10.8	1.4
	35歳～44歳	151	15.9	72.2	11.9	0.0
	45歳～54歳	160	12.5	75.6	11.3	0.6
	55歳～64歳	148	18.9	77.0	4.1	0.0
	65歳以上	303	24.8	69.0	4.6	1.7

性別でくわしくみていくと、「「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」育てた方がよい」と答えた人は女性で 13.6%、男性で 25.4%となり、男性が 11.8 ポイント上回った。「男女に関わらず、個人の能力や性格に応じて、その子らしく育てた方がよい」と答えた人は女性で 78.4%、男性で 65.7%となっており、女性が 12.7 ポイント上回った。

前回とは選択肢が異なることから、単純な比較はできないものの、「「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」育てた方がよい」と答えた人は女性で 25.4 ポイント、男性で 32.3 ポイントの減少となり、今回は男性の半数以上がこれを選択していたことからすると、男性の変化が著しいことが指摘できる。またこの項目は前々回から一貫して選択する人が減り続けている。また「どちらでもよい」も男女とも減少しており、女性で 16.6 ポイント、男性で 7.8 ポイント少なくなった。

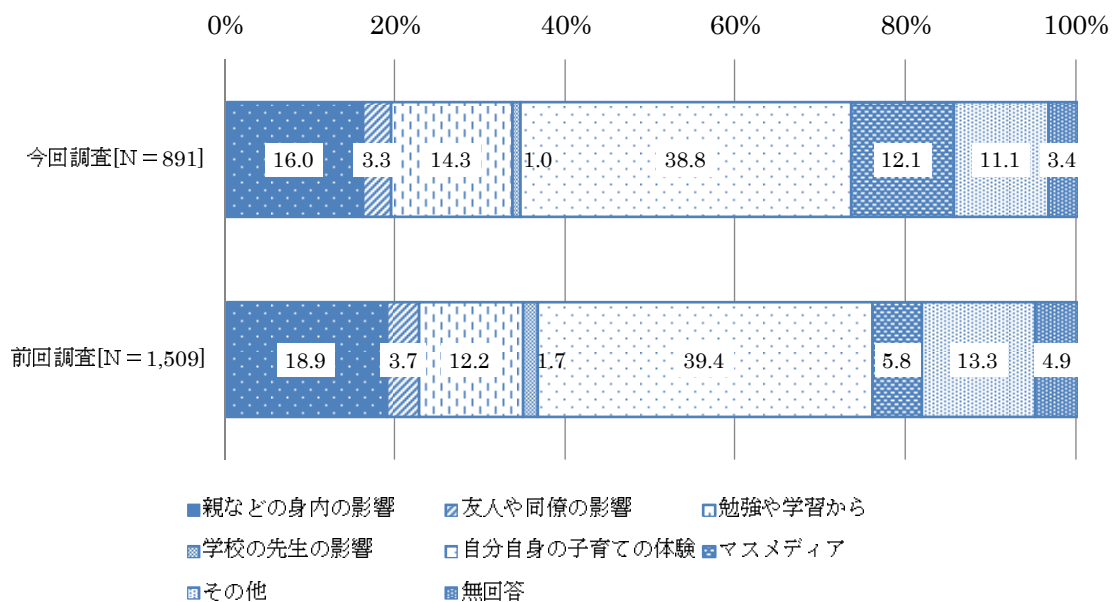
つぎに年齢別でみていくと、「「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」育てた方がよい」と答えた人がもっとも多いのは「65 歳以上」の 24.8%で、おおむね年齢が下がるにつれこれを選択した人は減少しており、もっとも少ない「16～24 歳」では 4.4%であった。「男女に関わらず、個人の能力や性格に応じて、その子らしく育てた方がよい」と答えた人が一番多かったのは「16～24 歳」で 86.7%と大半を占めており、ついで多いのは「55 歳～64 歳」で 77.0%、「45～54 歳」で 75.6%と続いた。もっとも少ない「65 歳以上」でも 69.0%となっており、いずれの年齢層においても 7 割近く、もしくはそれ以上を占めていることがわかる。「どちらでもよい」を選択した人がもっとも多いのは「35～44 歳」で 11.9%、以下、「45～54 歳」で 11.3%、「25～34 歳」で 10.8%となり、もっとも少ない「55～64 歳」で 4.1%であった。

これを性別同様、同じ項目で前回と比べてみると、「「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」育てた方がよい」と答えた人はいずれの年齢層においても減少しており、「45～54 歳」で 34.9 ポイント、「55～64 歳」で 34.0 ポイント、「65 歳以上」でも 34.0 ポイント減少と、高年齢層における減少率の高さが指摘できる。「どちらでもよい」もどの年齢層でも減少しており、「65 歳以上」では 4.8 ポイント、「55～64 歳」で 11.8%、「45～54 歳」では 6.5 ポイントの減少であるが、「16～24 歳」では 29.6 ポイント、「25～34 歳」で 24.1 ポイント、「35～44 歳」で 16.1 ポイントと、こちらは低年齢層での減少率が高いことがわかる。

属性	項目	N数	子どもの育て方に対する考え(SA)			
			「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」	「女の子も男の子と同じように育てた方がよい」	どちらでもよい	無回答
性別	女性	854	39.0	34.2	23.7	3.2
	男性	603	57.7	21.9	16.1	4.3
年代	16歳～24歳	117	27.4	33.3	38.5	0.9
	25歳～34歳	192	35.4	28.1	34.9	1.6
	35歳～44歳	214	34.1	34.6	28.0	3.3
	45歳～54歳	247	47.4	30.4	17.8	4.5
	55歳～64歳	314	52.9	28.0	15.9	3.2
	65歳以上	405	58.8	25.2	9.4	6.7

問 9-2 問 9 での回答について、あなたは、なぜそのようにお考えになりましたか。
 (最も当てはまる番号を1つ)

図表 子どもの育て方に対する考えの根拠 (SA)



子どもの育て方について、なぜそう考えるのか根拠を問うたところ、「自分自身の子育ての体験」と答えた人が38.8%と最も多かった。ついで「親などの身内の影響」が16.0%、「勉強や学習から」が14.3%、「マスメディア」が12.1%となった。

前回と比べると、「自分自身の子育ての体験」「親などの身内の影響」「勉強や学習から」と答えた人の割合にほぼ変化はないが、「マスメディア」と答えた人が6.3ポイント上昇した。

子どもの育て方に対する考えの回答		性別	N数	子どもの育て方に対する考えの根拠(SA)							無回答
				親などの身内の影響	友人や同僚の影響	勉強や学習から	学校の先生の影響	自分自身の子育ての体験	マスメディア(本、雑誌、テレビ、インターネットなどの影響)	その他	
女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよい	今回調査	合計	161	23.0	1.9	6.8	0.0	44.7	3.1	16.8	3.7
		女性	73	26.0	1.4	4.1	0.0	45.2	2.7	15.1	5.5
		男性	86	19.8	2.3	9.3	0.0	45.3	3.5	17.4	2.3
	前回調査	合計	705	24.0	2.6	9.2	1.7	45.1	3.7	13.0	0.7
		女性	333	24.3	1.5	7.8	1.5	48.0	3.9	12.0	0.9
		男性	348	24.1	3.7	10.6	1.7	42.2	3.4	13.8	0.3
男女に関わらず、個人の能力や性格に応じて、その子らしく育てたほうがよい(女の子も男の子も同じように育てたほうがよい)	今回調査	合計	652	14.9	3.7	16.4	1.2	39.6	14.4	7.8	2.0
		女性	419	16.2	3.8	17.9	1.0	39.9	14.3	5.5	1.4
		男性	222	13.1	3.6	14.4	1.8	37.4	14.0	12.6	2.7
	前回調査	合計	437	15.3	5.0	19.9	2.3	38.7	8.7	9.2	0.9
		女性	292	17.1	4.1	20.2	1.7	38.7	7.9	8.9	1.4
		男性	132	11.4	7.6	18.9	3.0	37.9	10.6	10.6	0.0
どちらでもよい	今回調査	合計	68	10.3	2.9	13.2	1.5	23.5	13.2	30.9	4.4
		女性	38	13.2	0.0	10.5	0.0	26.3	13.2	28.9	7.9
		男性	28	3.6	7.1	17.9	3.6	17.9	14.3	32.1	0.0
	前回調査	合計	305	16.1	5.2	10.5	1.3	35.1	7.9	22.6	1.3
		女性	202	15.3	4.5	9.9	0.5	35.1	6.9	25.7	2.0
		男性	97	18.6	7.2	11.3	3.1	33.0	9.3	17.5	0.0

これを前回同様、「子どもの育て方に対する考え」ごとに性別でくわしくみた。「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」と考えている人では、「自分自身の子育ての体験」を挙げた人が男女とも半数近くを占め、女性で45.2%、男性で45.3%とほとんど差はなく、ついで「親などの身内の影響」を挙げた人が女性で26.0%、男性で19.8%と女性のほうが6.2ポイント高かった。「男女に関わらず個人の能力や性格に応じて育てたほうがよい」と考えている人においても、「自分自身の子育ての体験」を根拠にする人が男女とももっとも多く、女性で39.9%、男性で37.4%と、ほぼ差はみられず、つぎに「勉強や学習から」を挙げた人が男女とも多く、女性で17.9%、男性で14.4%と続いた。また「どちらでもよい」と考える人で根拠となったものは、女性では「その他」がもっとも多く28.9%、ついで「自分自身の子育ての体験」で26.3%となった。男性でももっとも多かったのは「その他」で32.1%、ついで「自分自身の子育ての体験」と「勉強や学習から」が17.9%と同じ値で続いた。

前回の結果と比較すると、大きな変化はなく、「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」と考えている人において、男女とも「自分自身の子育ての体験」を根拠とする人がもっとも多く、ついで「親などの身内の影響」を挙げる人が多かった。「男女に関わらず個人の能力や性格に応じて育てたほうがよい」と考えている人が男女とも「自分自身の子育ての体験」を第一位に挙げ、ついで「勉強や学習から」を挙げた人が多い傾向に差はなかった。「どちらでもよい」と考える人では、「その他」が男女とも増加し、「自分自身の子育ての体験」が女性で8.8ポイント、男性では15.1ポイント減少した。

(単位:%)										
年代	調査	N数	親などの身内の影響	友人や同僚の影響	勉強や学習から	学校の先生の影響	自分自身の子育ての体験	マスメディア	その他	無回答
16歳～24歳	今回調査	45	40.0	2.2	13.3	4.4	6.7	24.4	8.9	0.0
	前回調査	117	32.5	14.5	17.1	4.3	1.7	7.7	21.4	0.9
25歳～34歳	今回調査	74	21.6	13.5	10.8	1.4	12.2	12.2	25.7	2.7
	前回調査	192	32.3	5.7	18.8	1.6	8.9	6.3	24.0	2.6
35歳～44歳	今回調査	151	26.5	2.0	17.9	1.3	25.8	11.3	11.9	3.3
	前回調査	214	17.8	3.7	19.2	0.9	37.4	2.3	15.0	3.7
45歳～54歳	今回調査	160	14.4	2.5	11.9	0.6	41.9	15.0	12.5	1.3
	前回調査	247	13.0	2.4	10.5	1.6	50.6	4.0	12.6	5.3
55歳～64歳	今回調査	148	8.1	3.4	16.2	0.7	48.6	6.8	12.2	4.1
	前回調査	314	15.3	1.6	8.6	1.3	51.3	7.6	10.5	3.8
65歳以上	今回調査	303	10.9	2.0	14.2	0.7	50.2	11.2	6.6	4.3
	前回調査	405	15.8	2.2	7.2	2.0	49.9	6.9	8.1	7.9

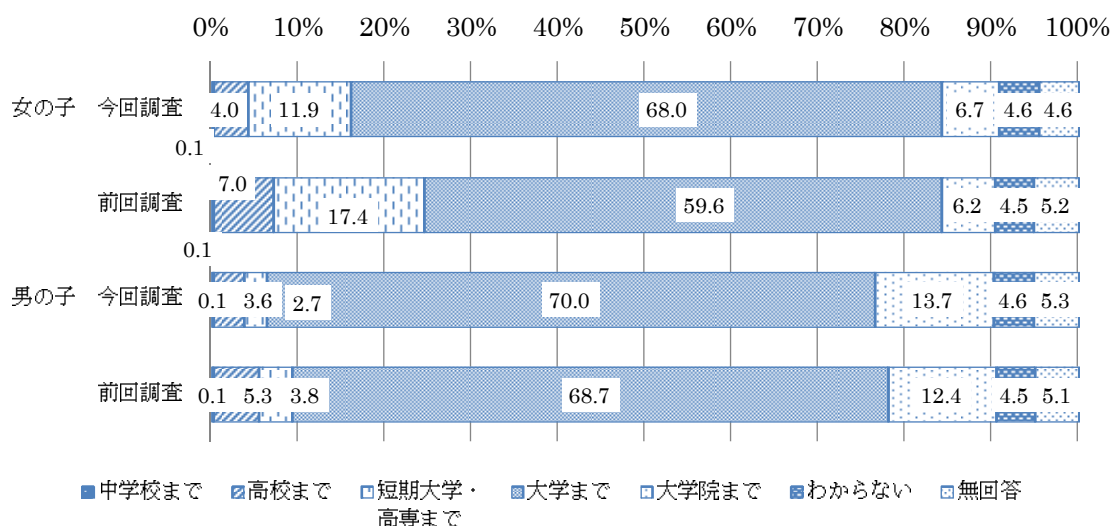
年齢別の違いをみるために上位2つを挙げていくと、「16～24歳」でもっとも多かったのは「親などの身内の影響」で40.0%、ついで「マスメディア」が24.4%であり、「25～34歳」では1位は「その他」で25.7%、ついで「親などの身内の影響」が21.6%であった。

「35～44歳」においても多かったのは「親などの身内の影響」で26.5%、ついで「自分自身の子育ての体験」で25.8%となった。「45～54歳」から1位は変化し、「自分自身の子育ての体験」で41.9%、2位は「マスメディア」で15.0%となった。「55～64歳」と「65歳以上」でもっとも多かったのもいずれも「自分自身の子育ての体験」で48.6%と50.2%、ついで「勉強や学習から」でそれぞれ16.2%と14.2%となった。低い年齢層で「親などの身内の影響」が多く、高い年齢層で「自分自身の子育ての体験」が多くを占める傾向にあることがわかる。

これを前回と比べてみると、「16～24歳」と「25～34歳」の低年齢層で「親などの身内の影響」が多く、45歳以上の高年齢層で「自分自身の子育ての体験」が格段に多くなる傾向に大きな変化はない。また「マスメディア」と答えた人がいずれの年齢層においても増加しており、とりわけ「16～24歳」で16.7ポイントと、その増加率が目立っている。

問 10 あなたの子ども(子どもがいない方も、子どもがいると仮定してお答えください)には、どの程度までの教育を受けさせたい(受けさせたかった)ですか。女の子、男の子それぞれについて当てはまる番号を1つ選んで○印をつけてください。

図表 子どもに受けさせたい教育程度(SA) [N=891]



子どもに受けさせたい教育程度を尋ねたところ、「女の子」「男の子」とともに一番多かったのは「大学まで」でそれぞれ 68.0%、70.0%でほとんど差がなく、ついで多かったのが「女の子」では「短大・高専まで」で 11.9%（「男の子」では 2.7%）、「男の子」では「大学院まで」で 13.7%（「女の子」ではと 6.7%）となった。以降は「わからない」が男女とも 4.6%、「高校まで」が「女の子」で 4.0%、「男の子」で 3.6%、「中学校まで」は男女とも 0.1%となっており、第2位に挙げたものが「女の子」「男の子」に望む教育程度の差となった。

これを前回と比較すると、「大学まで」が男女とももっとも多い点と、「男の子」に受けさせたい教育程度はほぼ変わっていない。変化がみられるのは「女の子」への教育程度で、「大学まで」が 8.4 ポイント上昇し、「短大・高専まで」が 5.5 ポイント減少、「高校まで」も 3.0 ポイント減少した。「女の子」に受けさせたい教育程度において、「大学まで」は前々回から引き続き増加しており、今回調査で「大学まで」についてはほぼ男女差が解消したといえる。

図表 性別 子どもに受けさせたい教育程度(SA)										
										(単位:%)
		性別	N数	中学校まで	高校まで	短期大学・高専まで	大学まで	大学院まで	わからない	無回答
女の子	今回調査	女性	536	0.2	3.5	13.4	66.6	6.7	4.9	4.7
		男性	338	0.0	4.7	9.2	71.9	6.5	3.8	3.8
	前回調査	女性	854	0.1	5.6	17.2	60.9	6.3	5.4	4.4
		男性	606	0.2	9.3	17.1	58.4	6.3	3.2	5.6
男の子	今回調査	女性	536	0.2	3.2	2.6	69.6	14.4	4.9	5.2
		男性	338	0.0	4.1	2.7	71.9	12.7	4.1	4.4
	前回調査	女性	854	0.0	3.7	3.9	70.5	12.4	5.0	4.4
		男性	606	0.3	7.8	4.0	67.2	12.1	3.5	5.1

子どもに受けさせたい教育程度を性別で詳細にみていくと、「男の子」に受けさせたい教育程度について男女差はさほどみられないが、「女の子」に受けさせたい教育程度において若干の差がみられ、「短大・高専まで」が女性で13.4%、男性で9.2%と女性のほうが4.2ポイント高く、「大学まで」が女性は66.6%であるのに対し男性は71.9%と男性が5.3ポイント高かった。すなわち、男性に比べて女性が「女の子」に受けさせたい教育程度は、「大学まで」よりも「短大・高専まで」のほうが若干多いことがわかる。

これを前回の結果と比較すると、「男の子」に受けさせたい教育程度はあまり変わっていないが、「女の子」に受けさせたい教育程度に変化がみられる。「高校まで」が女性で2.1ポイント、男性で4.6ポイント減少し、「短大・高専まで」も女性で3.8ポイント、男性で7.9ポイント減少しており、男性の減少率が高いことがわかる。逆に「大学まで」は女性で5.7ポイント、男性で13.5ポイント上昇していることから、女性よりも男性の「女の子」に受けさせたい教育程度が前回よりも高学歴になっていることが指摘できる。

		(単位:%)									
	年代		N数	中学校まで	高校まで	短期大学・高専まで	大学まで	大学院まで	わからない	無回答	
女の子	16歳～24歳	今回調査	45	0.0	4.4	6.7	68.9	4.4	13.3	2.2	
		前回調査	117	0.0	7.7	5.1	73.5	3.4	8.5	1.7	
	25歳～34歳	今回調査	74	1.4	2.7	10.8	70.3	4.1	6.8	4.1	
		前回調査	192	0.5	11.5	18.2	56.3	4.2	7.3	2.1	
	35歳～44歳	今回調査	151	0.0	7.9	11.9	68.9	6.0	2.0	3.3	
		前回調査	214	0.0	6.5	12.1	64.0	5.6	7.0	4.7	
	45歳～54歳	今回調査	160	0.0	6.9	8.8	71.3	6.3	2.5	4.4	
		前回調査	247	0.0	6.9	13.4	62.8	5.7	6.1	5.3	
	55歳～64歳	今回調査	148	0.0	2.7	7.4	69.6	6.8	10.1	3.4	
		前回調査	314	0.0	6.7	18.5	62.1	6.7	2.2	3.8	
	65歳～65歳	今回調査	303	0.0	1.7	16.5	65.3	8.3	2.0	6.3	
		前回調査	405	0.2	5.4	24.7	51.4	8.4	1.2	8.6	
	男の子	16歳～24歳	今回調査	45	0.0	2.2	4.4	71.1	8.9	11.1	2.2
			前回調査	117	0.0	5.1	6.0	70.9	6.0	10.3	1.7
25歳～34歳		今回調査	74	1.4	2.7	4.1	73.0	6.8	6.8	5.4	
		前回調査	192	0.5	9.4	4.7	69.3	6.3	7.3	2.6	
35歳～44歳		今回調査	151	0.0	7.3	4.0	71.5	11.3	2.6	3.3	
		前回調査	214	0.0	6.1	1.9	71.0	10.3	6.1	4.7	
45歳～54歳		今回調査	160	0.0	5.6	3.1	71.9	13.1	2.5	3.8	
		前回調査	247	0.0	6.1	2.0	71.7	9.7	5.3	5.3	
55歳～64歳		今回調査	148	0.0	2.7	0.0	70.8	12.2	10.1	4.1	
		前回調査	314	0.3	5.1	5.1	70.7	12.7	2.2	3.8	
65歳～65歳		今回調査	303	0.0	1.7	2.6	67.3	18.5	2.3	7.6	
		前回調査	405	0.0	2.7	4.0	64.2	19.5	1.7	7.9	

これを年齢別に詳しくみていくと、「女の子」「男の子」ともいずれの年齢層においても「大学まで」がもっとも多く、65～70%前後となっている。大きなちがいがみられるのは、「短大・高専まで」「大学院まで」で、「短大・高専まで」とする人は「男の子」についてはいずれの年齢層でも4%台までに止まっているが、「女の子」に対してはもっとも少ない「16～24歳」でも6.7%、一番多い65歳以上では16.5%となっている。また、「大学院まで」については、「女の子」では多くでも65歳以上の8.3%であるのに対し、「男の子」ではもっとも少ない「25～34歳」で6.8%、もっとも多い「65歳以上」では18.5%となっている。

これを前回と比較すると、「女の子」の「大学まで」が「16～24歳」をのぞくいずれの年齢層においても増加し、「25～34歳」で14.0ポイント、「65歳以上」でも13.9ポイント増えている。また同じく「女の子」の「短大・高専まで」は「16～24歳」をのぞくいずれの年齢層でも減少しており、「55～64歳」で11.1ポイント、「65歳以上」でも8.2ポイントと、高年齢層において減少率が高くなっている。他のいずれの年齢層とも異なるデータを示したのが「16～24歳」で、「大学」までは4.6ポイント減少し、「短大・高専まで」がわずかではあるが1.6ポイント上昇しており、注意を要する点である。